

平成 28 年度

男女共同参画社会づくり地域リーダー育成事業

# 研修報告書



地震から

自信

へ 28





## 研修報告書目次

### あいさつ

- ◇熊本県くまもと県民交流館長 . . . . . 1
- ◇熊本県国内派遣研修団長 山口法子（研修生代表） . . . . . 2

### 研修生名簿 . . . . . 3

### 研修レポート

- ◇年間事業スケジュール . . . . . 6
- ◇県外研修・研修日程 . . . . . 7
- ◇事前研修(8月5日) . . . . . 9
- ◇県外研修(11月3日～5日) . . . . . 11
- ◇事後研修(1月13日) . . . . . 38

### 個人レポート . . . . . 42

### 自主研修実施報告書 . . . . . 60

### 編集後記、研修団名について . . . . . 82

# あいさつ

平成11年に制定された男女共同参画社会基本法の前文において、男女共同参画社会の実現は緊要な課題であり、21世紀の日本社会を決定する最重要課題と位置付けられています。

本県では、平成13年に熊本県男女共同参画推進条例を制定するとともに、熊本県男女共同参画計画を策定し、社会情勢に応じた改訂を加えながら、あらゆる分野における男女共同参画を推進してきました。現在、計画の基本目標である「男女がともに自立し支えあう、多様性に富んだ活力ある社会の実現」を目指し、「固定的性別役割分担の解消」や「長時間労働に対する男女の意識の変革」などの実現に取り組んでいます。

一方、政府が主要施策として位置づけている女性の活躍推進については、一昨年9月、女性がそれぞれの希望に沿った働き方の実現や、その個性や能力を発揮できるための環境整備などを基本原則とした「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」が施行されました。本県においては、これらの国の動きを先取りし、全国に先駆けて「熊本県女性の社会参画加速化戦略」を策定し、女性の社会参画の加速化に向け取り組んでいます。

男女共同参画社会の実現には、行政だけでなく県民総ぐるみでの取組が重要であることから、本県では、地域・職場・家庭などでの男女共同参画推進のけん引役となる人材の育成を目的に、昭和58年度から「男女共同参画社会づくり地域リーダー育成事業」を独自に実施しています。これまでに900名近くの修了者が誕生し、それぞれが県内各地で様々な活動に取り組んでいます。

本年度も、東京都や埼玉県への3日間の県外研修を中心とするプログラムに、県内各地から22名の方々が参加し、地域が抱えるさまざまな課題等について、男女共同参画の視点を通して学びを深めました。

この報告書には、研修生の皆様の学びや新たな気づきが記されています。これにより当事業の成果と意義への理解が深まるとともに、研修生の皆様のより一層の御活躍を期待しております。

最後に、この研修にあたり、講師や視察の受入など、事業の実施に格別の御高配をいただきました関係者の皆様に心から御礼申し上げます。

平成29年3月

熊本県くまもと県民交流館長  
中園 三千代

## 研修生代表あいさつ

皆様、県外研修お疲れ様でした。今年度の研修団の団長を務めることになり、最初は何をしたらよいのだろうかと思っていましたが、皆様の協力のお陰で、スムーズに、そして無事に2泊3日の研修日程を終えることができました。本当に団長としての役目はないに等しいような・・・逆にご迷惑をおかけしてはいないかと思う程でした。ありがとうございました。



私には4人の子どもがいて、一番下の子はまだ小学一年生です。今回、家を3日間も空けることが、私にとって、まず最初の難関でした。夫に相談することにドキドキして、やっとの思いで伝えたことを覚えています。しかし、夫が出張等で家を空けるのは当たり前のようにあることですね。こういった意識も、男女共同参画について考える上での課題の一つである気がします。そのような中で、今回の研修に参加させていただき、家族、周りの方々には、感謝の気持ちでいっぱいです。

この研修を通して、男女共同参画社会のあり方が少し分かったような気がしました。女性である私の目から見た男女共同参画社会のイメージは、男性がもっと女性を大切にしたり、女性にも指導的な立場の方が増えて国を変えていくようなものだと思っていました。しかし、私がこの研修で必要だと感じたのは、「女性と男性の歩み寄り、分かち合い」でした。一人ひとりができることを認めて、「歩み寄るんだ、分かち合うことが大切なんだ」と思えるようになりました。もっと人に優しくできそうな気持ちになりました。女性も男性も、心地よく暮らせる環境、社会をこれから創っていければ、みんなが幸せを感じることができるのではないかと思います。

研修の3日間は、たくさんの内容が凝縮されてて、大変勉強になりました。これからの私自身の野望の大きなヒントにもなりました。そして、今回出会えた方々、特に同じ班の方達は、とても個性的かつユニークで、毎日楽しくて笑って過ごすことができました。来年もできれば参加したいと思えるほどに、とても良い研修でした。

最後に、パレアの田中さん、坂本さん、ありがとうございました。大人をまとめるのは、子どもよりある意味大変ですよ（笑）。お疲れ様でした。素敵な皆様との出会いがあり、そこから絆と繋がりも生まれました。皆様が一步を踏み出さなかったら生まれなかったものです。これからも大切にしていきたいです。私にとっての宝物になりました。 感謝

平成28年度研修団／地震から自信へ28 団長  
山口法子

# 研修生名簿

【1班】班長：平野 利和

氏名	市町村	区分
豊里 幸	荒尾市	一般
原 恭平	合志市	一般
田川 美穂	和水町	一般
平野 利和	玉名市	市町村職員
井村 佳織里	和水町	市町村職員

【2班】班長：山口 法子

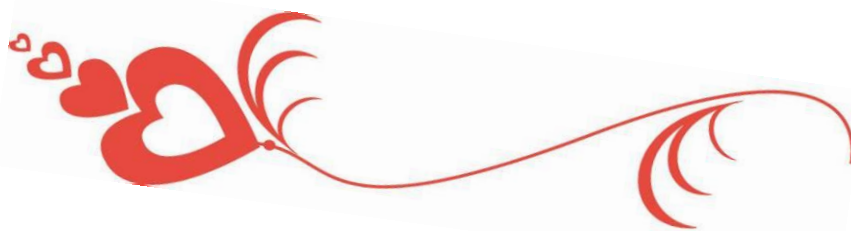
氏名	市町村	区分
田中 聡子	山鹿市	一般
山口 法子	菊池市	一般
田中 緑	長洲町	一般
堀田 香澄	大津町	一般
山本 美千代	菊池市	市町村職員
大津山 恭子	山都町	市町村職員

【3班】班長：吉松 法政

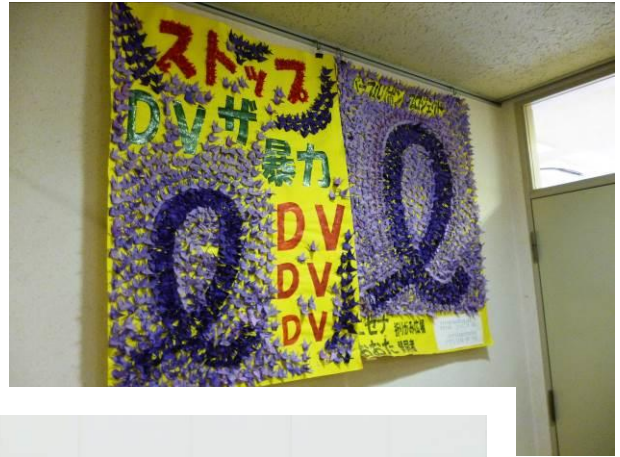
氏名	市町村	区分
山本 敬晃	八代市	一般
渡邊 利香	人吉市	一般
小崎 あすみ	上天草市	市町村職員
生嶋 祥子	天草市	市町村職員
吉松 法政	五木村	市町村職員

【4班】班長：笹山 裕斗

氏名	市町村	区分
梁 美千	八代市	一般
下村 淑子	八代市	一般
岡 早百合	宇城市	一般
熊谷 和信	菊陽町	一般
荒木 羽純	上天草市	市町村職員
笹山 裕斗	宇城市	市町村職員



# 研修レポート







# 1年間事業スケジュール

項目	日程	内容
研修参加者募集	4月25日(月) ～6月10日(金)	・ 募集人数 30人 (一般研修生 20人、市町村職員研修生 10人)
研修参加者決定	7月1日(金)	・ 研修参加者 22人 (一般研修生 13人、市町村職員研修生 9人)
事前研修	8月5日(金)	・ 男女共同参画社会に関する基礎研修 ・ 県外研修のオリエンテーション、グループワーク
県外研修 【東京都・埼玉県】	11月3日(木・祝日) ～11月5日(土)	・ 男女共同参画社会に関する専門研修(講話) ・ 拠点施設(エセナおおた、With You さいたま)の視察及び交流
自主研修	11月～12月	・ 研修成果を生かした自主企画の実践 (県外研修で習得したことの報告会や、男女共同参画をテーマとした研修会等)
事後研修	1月13日(金)	・ 過去の研修修了生による活動紹介 ・ 自主研修の成果発表 ・ 今後の活動等についての意見交換
研修報告書の作成	1～3月	・ 研修生が書いた研修レポートの編集、印刷・製本
地域リーダー研修 修了証の交付	3月	・ 研修修了証交付

平成28年度 県外研修日程

時間	11/3(木) 祝日 <第1日目>	11/4(金) <第2日目>
8		
9		8:50 - ホテルロビー集合
10		9:00 - 宿泊ホテル発 移動(貸切バス) 9:00~10:30
	各自移動(～羽田空港)	10:30 - 埼玉県男女共同参画センター(With Youさいたま)
11	10:55 - 集合(出会いのひろば) 11:00 - 羽田空港発 移動(貸し切りバス) 11:00~11:25	<b>視察2「With Youさいたまについて」</b> 事業説明と施設見学 10:40~11:30
12	11:30 - <b>視察1 エセナおおた施設見学</b> 事業説明と施設見学	11:30 - 昼食 11:30~12:30
	12:20 - 昼食兼交流会 12:20~13:20	12:30 - <b>講話2</b> <b>「統計から考える日本の男女共同参画」</b> 国立女性教育会館客員研究員 高橋由紀氏 12:30~14:00
13	13:20 - <b>講話1</b> <b>「行列のできる講座とチラシの作り方」</b> 男女共同参画おおた 理事長 坂田静香氏 13:20~14:50	休憩
14	休憩	14:05 - <b>交流2 意見交換会(分科会)</b> 14:05~15:35
15	15:00 - <b>交流1 分科会</b> 15:00~16:30	休憩
16	16:30 - <b>全体会</b> 16:30~16:50	15:45 - <b>講話3</b> <b>「ややこし話をおもしろく～ニッポンの夫婦と男女共同参画～」</b> 鶴ヶ島市職員 阪本真一氏 15:45~17:15
17	17:00 - エセナおおた発 移動(貸切バス)17:00~17:40	17:15 - With Youさいたま発 移動(貸切バス)17:15~18:30
18	17:40 - 解散(川崎市内ホテル)	18:30 - 解散(川崎市内ホテル)
19		

平成28年度 県外研修日程

時間	11/5(土) <第3日目>	
8		
9	9:00 -	川崎市内会議室
10		<b>講話4</b> <b>「新しい時代の男の生き方」</b> 株式会社ソーレ代表取締役 東浩司氏 9:00～10:30
		休 憩
11	10:40 -	<b>講話5</b> <b>「なぜ女性視点の防災が必要なのか」</b> NPO法人ママプラグ副代表 富川万美氏 10:40～12:10
12	12:10 -	解団式・解散
13		(各自帰着)
14		
15		
16		
17		
18		
19		

# 事前研修

[日時] 8月5日(金) 10:00~16:30

[場所] くまもと県民交流館 会議室1

[記録] 坂本 将幸(パレア)

## 【事前研修のメニュー】

- 1 開会(くまもと県民交流館長挨拶、県男女共同参画センター事業説明等)
- 2 講話「いま、なぜ、どんな男女共同参画社会なのか」  
熊本大学法学部 鈴木桂樹 教授
- 3 オリエンテーション ①県外研修についての説明  
②班別グループワーク(自己紹介、意見交換計画作成等)  
③団長決定

研修の第一歩として、男女共同参画社会とはどのようなものなのかを理解するために、熊本大学の鈴木桂樹教授から、「いま、なぜ、どんな男女共同参画社会なのか」をテーマにお話をいただいた。

### (男女共同参画社会とは)

- 地方防災会議の委員に占める女性の割合は、全国的に低い水準にある。しかし、災害に備えた備品の備蓄や避難所運営などでは、男性と女性とでは視点やニーズが異なり、これまで以上に女性の意見が反映されることが必要である。このように、男女共同参画社会の視点は、私たちの生活に直結している。現在、国において男女共同参画社会に関する政策は内閣府が担当しており、国としても、男女共同参画社会の推進を重要な施策として位置づけている。
- 性差には、生物的な違いによる性差と、社会的・文化的につくられた性差(ジェンダー)の2種類がある。後者における性差については、何をもって男らしさ、女らしさとするかは、国や地域、時代によって大きく異なり、文化的につくられた違いは変えていけるもの。人には個人差があり、男、女と一括りにせず、一人一人が違う事を認識することが男女共同参画社会の発想・視点である。

### (なぜ、いまなのか)

- 国際社会での競争環境は激化しており、先進国はより高度な人材活用戦略を取り入れ、適材適所の人材活用で危機を乗り切ろうとしているが、日本のこれまでの性別役割分業では、女性の力を活かせず、国際社会に太刀打ちできなくなっている。少子高齢化が進む社会で、労働力不足への対処としても、女性の活躍の促進が必要である。

### (どんな、男女共同参画社会なのか)

- 自殺率・過労死率ともに、女性よりも男性が圧倒的に多い。古い男性像が男性自身を追い詰めていることが原因ではないか。また、仕事一途で生きていた男性は、定年後に生きる目的を見失ってしまいがち。男性の新しい生き方を考える必要がある。
- 今の男性の働き方に女性も加わっていくような形では、男女ともに家庭での時間を持つことが出来ない。男女双方の働き方・生き方を変えるのが、あるべき男女共同参画社会である。ワークライフバランスの推進は、企業や組織にとっても、業務の効率性を高めるうえで重要な課題となっている。



男女共同参画社会の基本的な考え方や意義について、様々なデータや事例を基に解説していただき、それぞれが新たな気づきを得ることができた。これからの研修に向けて期待が高まった様子であった。



午後は各班に分かれ、自己紹介や県外研修での役割分担、現地での意見交換に向けた班ごとのテーマについて話し合った。それぞれが日頃より関心を持つ課題等を中心に、熱心な議論が交わされていた。

# 視察1 「エセナおおた事業説明・施設見学」

講師: 特定非営利活動法人男女共同参画おおた 職員

[日時] 11月3日(木) 11:30~12:20

[場所] 大田区立男女平等推進センター(エセナおおた)

[記録] 豊里 幸(1班)



## 【事業説明】

### 1、センター概要

#### <設置目的>

男女共同参画社会実現を目指し、区民の自主的な活動の場を提供する。

#### <名称>

「エセナおおた」の「エセナ」とは、スペイン語で「ステージ・場・場面」を意味し、1999年に一般公募によって名付けられた。

#### <運営>

特定非営利活動法人 男女共同参画おおた

設立: 2003年12月4日(法人格取得2004年5月13日)

### 2、センター利用

利用率は70%~95%で、過去に講座への参加や施設を利用した方の中で、ボランティアスタッフに登録している方も運営に携わっている。

### 3、事業

フォーラム、フェスタ、ワークライフバランス普及、DV防止啓発、女性就労支援、区民との協働事業など

### 4、交流

住民とのつながりを大切にしており、女性だけでなく、男性にも多く関わってもらえるよう工夫していることで、年間10万人以上の来館に繋がっている。



## 【施設見学】

- 1階：男女共同参画スペース（講座・展示など）、会議室、カフェおひさま
- 2階：調理室、学習室、情報・図書コーナー、和室、工房
- 3階：音楽室、相談室、多目的ホール、子ども室

工夫を凝らした企画イベントのチラシが壁面の各所に掲示されており、とても華やかな雰囲気であった。男性が参加しやすい講座の内容も参考となった。



「災害支援に女性の視点を!!」をテーマに様々な展示がなされており、災害時に女性が困る事について、事前に想定しておくことが大切だと改めて感じた。



地震が起きた際、トイレの問題は必ず起きる。簡易トイレの設置や使用方法について、人の目に触れる形での展示はいざという時のための参考になり、日頃からの防災意識向上に役立つ。

施設の中で一番日当たりの良い場所に子ども室を設けていた。

室内に給湯室やトイレもあり、託児付き事業での利用や施設利用の際に活用されており、素晴らしい環境だった。



# 講話1 「行列ができる講座とチラシの作り方」

講師: 特定非営利活動法人男女共同参画おおた 理事長 坂田 静香 氏

[日時] 11月3日(木) 13:20~14:50

[場所] 大田区立男女平等推進センター(エセナおおた)

[記録] 大津山 恭子(2班)

## 【はじめに】

講師である坂田静香氏が理事長を務められている、特定非営利活動法人男女共同参画おおたは、エセナおおたの指定管理者を務めている。エセナおおたでは、男女共同参画社会の実現に向けて、多様な講座やイベントなどを開催している。この講話では、坂田氏がエセナおおたの各種講座の開催実績等から見出した、聴衆が集まる講座とチラシの作り方について、実践的な講話をいただいた。



## 【人が集まる講座を実施するには】

そもそも、公の事業として講座等を開催する場合、その目的は「講座を催すこと」ではなく、その内容を参加者に広めることによる何らかの目的が存在するはずである。講座開催による成果や目的への達成度を図る上で、まず第一に指標となるのが参加者数(集客)。講座に人が集まらない原因は、「企画力」と「広報・PR力」が不足しているためである。魅力的な講座を行なうには、この2点を磨くことが大事である。

### ～ ダメなチラシの例 ～

- ・行政にありがちな使い返し。  
(チラシを使い回してよいのは、成功例のみ。)

しかし3年くらいが賞味期限。)

#### < 企画力 関係 >

- ・テーマが堅苦しい。
- ・講座の目的や何を学ぶのか分からないもの。
- ・対象者が絞られていない。

#### < 広報・PR力 関係 >

- ・難しい言葉が使用されている。
- ・文字の強弱、メリハリがない。チラシのどこを読めばよいか分からない。
- ・講座のウリをチラシで宣伝できていない。





## 【 企画力と広報力 】

### ◆ 企画力

- ・ まずは、企画。顧客（講座に参加した方）にどのような価値を与えられるのかを明確にすることが重要。起業と同じ。
- ・ 対象者を徹底的に絞る。（誰でも対象とされている講座には、誰も来ない）
- ・ 対象者に合わせた講座回数、間隔、時間帯を検討する。
- ・ 課題解決型の内容とする。

### ◆ 広報力

- ・ タイトルにこだわる。  
ゴールが見える、対象者が分かる断定系（対象者の心に響く価値を分かりやすく）  
親子向け、子供向けには楽しそうなものを  
講師のセールスポイント  
女性向けはハードルを下げる言葉
- ・ 対象者に合わせたチラシ  
対象に合わせ、文字の大きさ、言葉遣い、広報媒体、申込方法などを検討する
- ・ ターゲットの心に響くキャッチーな言葉探し  
認知度の低い専門用語・業界用語を使用しない
- ・ 企画のウリを目立たせたチラシをつくる。（訴えるポイントは3つまで！）  
効果を数値化する場合、数字の単純化を図る
- ・ 読ませるチラシより見せるチラシへ  
タイトルは紙面の上部3分の1が勝負  
ゴールデンスポット（A4紙縦置きの場合、横書き：左上 縦書き：右上）を活用

## 【 さいごに 】

- ① 企画力・広報力向上のために
  - ・ 新聞、雑誌、ベストセラー本など、人気のものをチェックする、価値観が違う人と話をするなどの日々の努力により、企画の質が向上する。  
（対象者が求めるものも素早くキャッチ）
- ② PDCAサイクルにより、より良い講座へ
  - ・ 仮に、講座参加者数が少なくても終わりではない。講座開催の効果や目的の達成度を測るために、アンケートや追跡調査を実施し、次に繋げる。
  - ・ アンケートや調査結果を踏まえ、よりよい講座へとPLANを練り直すことが必要。
- ③ 担当者の熱意と努力
  - ・ やはり最後は、担当者の熱意と努力が大事。
  - ・ また、手段は講座形式のみではない。講座形式ではなじまないものもあるため、内容によっては他の方法が良い場合もある。

# 交流1「大田区立男女平等推進センター」

## 第1分科会 テーマ「職場でのワークライフバランスを進めるには」

[日時] 11月3日(木) 15:00~16:30

[場所] 大田区立男女平等推進センター(エセナおおた)

[記録] 平野 利和(1班)

### 問題意識

男女共同参画社会推進の目標の一つに、「個々人の能力が社会の中で十分発揮できる環境整備」があると思われる。一方、固定的な性別役割分担意識が社会通念上存在している中では、なんらかのバリアが存在している。そのバリアが個々人の能力や夢を発揮・実現しにくい状況にしているのではないか。一班では、性別役割分担意識が大変強いと思われる「育児休暇制度」を取り上げることによって、職場でのワークライフバランスの実現について話し合った。

### 【ステレオタイプからの脱却】

少子高齢・人口減少社会の今、育児は社会的な課題となっている。しかしながら当事者としては、とてもプライベートな課題である。

そのため育児休暇を取ることに、「迷いや不安」を感じる人が多いのではという話になった。例えば、女性が育児休暇をあまりとらずに仕事をすることは「出世欲があるのでは」、「キャリアウーマンの姿」、「家庭を顧みない」など形容される。一方で、男性が育児休暇を取得すれば「その後のキャリアにとってマイナスでは」、「周囲の目が気になる」、「男は猛烈に仕事さえすればいいもの」など、双方においてステレオタイプから逃れられない状況にあることが見えてきた。



### 【変化する社会のなかで暮らしさを求めて】

こうした障壁は、一体どこからくるのだろうか。いくつか要因があるなかで、世代間の認識の違いがあるのではないだろうか。祖父祖母世代からすれば「自分たちはこうやってきた。こう乗り越えてきた。」といった実体験による経験によって、現役世代へ圧力を与えてしまう。一方で、子育て世代は、現在どのような子育てをしたらいいのか、最適解を見出すことができないでいる。社会が、経済の低成長時代、少子高齢・人口減少社会と変化した今、「新しい子育て像」をうまく社会全体が共有できていない現状がそこにあると思われる。

さらに、「地域性」がのしかかる。大田区では、個々人同士の地域的繋がりが皆無に近いために、社会的なシステム、補完的施設や制度が自ずと発展しているようだ。一方で、研



修生の多くが居住している準農村地域では、農村的地域コミュニティが息づいている。こうした農村的地域コミュニティでの情報交換・解決方法などは、時には有効であると思われるが、地域活動への女性参加は低く、準農村地域においても住民の多様性がある。こうしたコミュニティは万全な受け皿ではないのではないか、我々は新たな育児に対しての社会的認識を考える必要があるのではないだろうかという意識に立った。

### 【思いやりを表現しよう】

こうしたなか一班では、「ダイアログ（＝対話）」を通じたワークライフバランスの実現を目指す必要性を見出した。職場でも地域でも、構成員らが過ごしやすい環境を構築することは共通利益になる。問題は、どのような対話空間を創造するかだ。

エセナおおたでは、男性向け講座・事業がかなり充実していた。こうした中で、様々な対話によって男性コミュニティがうまれているとのこと。それらが、育児休業制度への意識変革を促すかもしれない。

私たちの職場において、固定的な性別役割分担意識をなくしていくためには、どのような対話空間を作り出す必要があるだろうか。

まず、経営層や中間管理層への対話空間の重要性を認識させることが重要になるだろう。さらに有能なファシリテーターが必要となるだろう。このような条件整備をしていくことで、徐々にではあるが、職場でのワークライフバランスの推進や育児休暇の取得しやすさが改善されていくのではないか。

育児という極めてプライベートな問題が、単なる個々人の問題としてとらえるのではなく、対話空間の醸成によって、社会的な生活の質の向上に繋がることを認識するべきではないか。

一班では、このような話し合いを行った。



# 交流1「大田区立男女平等推進センター」

## 第2分科会 テーマ「男女共同参画の視点で考える地域防災」

[日時] 11月3日(木) 15:00~16:30

[場所] 大田区立男女平等推進センター(エセナおおた)

[記録] 大津山 恭子(2班)

### 【分科会の目的】

2班では、「男女共同参画の視点で考える地域防災」をテーマに掲げ、班員それぞれの熊本地震での体験を踏まえ、“女性が有事に震災対応を行うには?”という意見交換の柱を設定した。様々な立場の女性が、今回の熊本地震を改めて見つめ直し、今後にどのように活かすのか、震災時における女性の立場や震災対応に積極的に関わっていく方法について、再考する機会とした。

### 【意見交換のメンバー】

特定非営利活動法人 男女共同参画おおた

青木千恵さん(副理事長)、日向野みどりさん(理事)、定池由紀子さん

※東日本大震災などの被災地にも実際に訪れられた経験を元に様々な意見をいただいた。

### 【熊本地震の対応における課題】

分科会のテーマ設定の動機となった班員の意見や考えを、事前研修及び意見交換会において出し合った。

#### ◆ 地域の現状や課題

- ・震災時の女性の活動について、人により温度差がある。(職場環境や男女間で異なる。)
- ・災害時に、情報が入ってこない。(特に家庭内にいる女性)
- ・女性が助け合うための支援がない。特に、ボランティア等の支援活動をする意思のある女性に対する支援。
- ・同じ県内で女性でもボランティアに参加したいという気持ちはあるが、行けない状況。
- ・男性は仕事などで帰れない状況になることが多く、女性が残された家族を守らなければならない。特に、子どもが家に残されている。
- ・実際の震災時には、避難所は市町村の行政職員が運営を行わなければならないという状況だった。
- ・防災の女性リーダーが不在。



### ◆ 課題解決に必要なこと（視点）

- ・男性のなかでも声をあげられる女性リーダーが必要。
- ・女性でも震災対応を行なうには、パートナーや家族、周囲の理解が不可欠。
- ・災害時には、ボランティアに参加できる女性もいれば、やむを得ず家庭のことをする必要がある女性もいる。それぞれに対して理解が必要。
- ・災害対応のなかで女性ができる支援があることについて、認識を広げる必要がある。（特に、被災地の中心地ではなく、近隣の市町村の女性が支援活動を行える場合があり、それらを活用したほうがよいと考える。）

### 【 意見交換のまとめ 】

### ◆ 男女共同参画と防災

- ・男女共同参画を考える場合に、“防災”の切り口は、分かりやすい。
- ・男女共同参画の視点がない場合には、災害時に女性が行き詰まる。熊本地震でも女性が様々な葛藤を抱えている。これでは長く続かない。
- ・防災訓練等でも「女性は炊き出し」のように固定化されていることが多い。炊き出しのリーダー（差配役）は女性でも、実際に動くのは男性でもよいはず。実際、災害時に女性が動けない場合などもある。



### ◆ 災害時における女性への支援

- ・介護施設と保育園などをすぐ再開することが必要。家庭に取り残される老人や子ども預かることができる場が大事であるとともに、これらの職種には女性が就業していることが多いことから女性の仕事の場にもなる。
- ・それぞれの県や市町村における防災会議の実情を知ること。防災計画のなかに女性の視点が必要であるため、計画段階から女性に関わる体制が必要である。また、男性中心の会議においても意見を言える女性（＝リーダー）でなければ意味がない。
- ・大田区では、防災会議における女性の割合が増えている。少しずつ変わっている。市民が声をあげることが力になる。

### ◆ 次世代まで残す防災しくみづくり

- ・女性の防災リーダーづくり。まずは、自分が学んで実践し、広げていくこと！！
- ・まずは、仲間づくり。身近な支援体制から築いていくとやりやすいのでは。  
（例：「向こう三軒両隣での支援体制」「歩いて10分圏内で、自分を助けてくれる人づくり」「声かけ隊」など）
- ・女性は口コミで広がりやすい。一歩踏み出してみることが大事。
- ・男性の意識を変えるには、男性講師から女性の視点について講演してもらうと効果的。

# 交流1「大田区立男女平等推進センター」

## 第3分科会 テーマ「ワーク・ライフ・バランスを地域で進めるには」

【日時】 11月3日(木) 15:00~16:30

【場所】 大田区立男女平等推進センター(エセナおおた)

【記録】 渡邊 利香(3班)

### 【意見交換にご参加いただいたエセナおおた・スタッフの方】

坂田さん、坂倉さん、中西さん、飯島さん

### 【エセナおおたで特に話し合いたい事柄】

- ・先進地域との違い
- ・男性が育休を取得するためには?
- ・都会と田舎の違い
- ・成功事例(?)についての議論(育休・地域力等)



### 【現状】

- ・育児休暇が少ない
- ・育休制度はあるが使わない。
- ・東京都の女性の育児休業取得率は93%、男性は2%未満。
- ・自営業・サラリーマンの育児休業は少ない。
- ・大田区は町工場の人が多い。
- ・日本生命保険では、男性職員の育児休業7日程度取得を目標に掲げているが、ほぼ全てが1週間以内となっている。
- ・女性も育休で仕事を1年・2年休むのは不安であるし、居場所がないと感じている。
- ・育休後バリバリ働けるか不安だと感じている人が多い。
- ・男性は、もっと不安を感じている。
- ・男性は育休を取っても、実際はすることがない場合もある。
- ・男性の育休を義務化している企業があるほか、東京ではイクボスが増えてきている。
- ・部下が何人育休をとったかも上司の成績になる。
- ・育休については、都会と田舎との差はない。
- ・北陸地方は、同居率も高く就業率が高いが、女性の管理職率が低い。
- ・管理職への登用について、男性は家庭があるから上を目指し、女性は家庭があるからこそ断る傾向がある。
- ・日本人は、ワーク(仕事)が好きな傾向がある。
- ・PTA活動において、女性はフルタイムで働く人でも参加するが、男性は参加しない。
- ・自治会には、限られた人しか参加しないし、隣に住む人も知らない・関わりを持ちたくない・協力したくないという人が多い。
- ・まちづくり、防災において、元気高齢者の活躍が必須となる。

### 【課題】

- ・ 育児休業給付金の支給率が、平成26年4月より、50%から67%になったが、100%にならないと、安心して出産・子育てが出来ない。
- ・ 出産後の女性や、管理職の女性にとって、残業や転勤がネックになる。
- ・ 復帰後の環境が整っていなければ、育休も取りづらい。
- ・ 元気高齢者をいかに働かせるかが課題となる。



### 【まとめ】

- ・ 育休取得が困難な現状に、男性中心の雇用形態がある。
- ・ バリバリ働ける人に上司は育休を取れとは言わず、働けない人に声を掛けるという現状があるが、取れそうな人に取得してもらうことで、育休率アップへの取っ掛かりが出来る。
- ・ 男性の育休率を上げるだけでは、問題の解決にはならないし、育休取得率が高い女性でも、居場所がない・復帰後の環境が整っていなければ育休も取りづらい等、様々な問題がある。
- ・ 夫婦で半年ずつ育休を取るという選択肢もある。
- ・ 育休については、都会だから、田舎だからという地域での差はない。むしろ持ち家が多い田舎のほうが取りやすい。
- ・ 育休は、生き方を変えていくきっかけになる。
- ・ 市民レベルではなく企業が変わらなければならない。
- ・ 各種講座に1回だけでもパパに参加してもらう。(ママに勧めてもらう。)
- ・ これから益々、仕事の内容が変わってくる。現役時代から趣味を充実するなど、ライフの活かし方を考える必要がある。
- ・ ワークとライフのバランスは、個々による違いがあり、同じ人でも時期によって変化がある。
- ・ 男女共同参画を掲げるだけでなく、防災等を含めて地域のコミュニティを考えていかなければならない。
- ・ 入札の際に、女性管理職の割合も考慮することで、男女共同参画の推進につながる。
- ・ 地域での環境が整っている上天草の手本を他地域に広めていくことが、問題解決の近道になる。
- ・ あらゆる分野で、男女共同参画の視点が自然に入っていき社会を目指す。

# 交流1「大田区立男女平等推進センター」

## 第4分科会 選択テーマ「男女共同参画の視点を地域・職場・家庭に」

[日時] 11月3日(木) 15:00~16:30

[場所] 大田区立男女平等推進センター(エセナおおた)

[記録] 下村 淑子(4班)

【テーマ：男女共同参画の視点を地域・職場・家庭に浸透させていく啓発の方法とは？】

### 【地域の現状や課題】

それぞれの地域に昔からの慣習が残っている。地方では、区役での扱いに差が残り、家庭では男性優位の考え方が未だに残っている。また、異なる立場や考えへの非難などが地域・職場・家庭で蔓延していることがあり、それが次世代にも悪影響を及ぼしている。



### 【意見交換会の柱・キーワード】

地域や職場や家庭に於いて、具体的にどうやってアプローチしていったら良いか？

## 現状

- 男性対象講座参加者の参加動機のほとんどが、①奥さんからの強制、②退職後で暇
- 東京での就職は男女差別が大きく、それまでさほど男女差別を感じていなかった女性でも挫折を感じる人が多い。
- 課長以上は、ほとんどが男性ばかり。
- パパたちは仕事が忙しくて、子供を見る暇が無い。
- 若者の中には、男女差別を全く感じた事が無い人もいるので、学校教育の場での人権教育や道徳教育の成果が表れている。

## 現状を変える為に

- 「今頑張っている男性の集う場」「予防教育」を打ち出す。
- 人の声を聞く。「嫌」「違う」などの意見を言える社会を作っていく。
- 子育てで挫折する女性が多いので、上司の意識を変える。
- パパたちの子育て参加を促す為に、上司の意識を変える。
- 経営者や管理職に対して、男性の家庭・地域参画は組織や地域に良いことであると、“利益”を具体的に見せる。『イクボス宣言』は、現在、全国的に普及が進んでいる。

## エセナおおたでやっている事

- 年度目標を立て、事業数を多く計画し、複数人でしっかりと練り上げた企画書を立て、対象者を絞る。
- 男女共同参画啓発講座を複数企画
- 父親と子供のための対象講座を企画
- 女性のための対象講座を複数企画『女の生き方塾』



- 男性のみの対象講座も企画。『男の生き方塾』『男の気軽なおしゃべりサロン』
- 女性の就労支援事業
- チラシを置く場所も対象者を考慮して置いている。

#### 【課題】

- 男性の家事、育児、介護等に関する意識が低い。
- 「男性が相談する場や相手がない」為に、男性向けの講座を開講しても啓発出来るのは人口からの割合で見ると1パーセント以下である。しかも、そのほとんどの参加動機が消極的。

#### 【まとめ】

「教育」は、若者の効果の例からみても明らかである。意識改革を促す機会を増やすことが必要。学生は、学校教育の場があるが、社会人になると関心のあるごく一部の人のみが講座等に足を運ぶ事になるため、啓発の機会や場所を検討する必要がある。また、男性講座の参加者の参加動機がなぜ消極的かも考察する必要がある。社会を変革するには男女の意識改革がどうしても必要なのである。



# 視察2「With You さいたまについて」

講師：埼玉県男女共同参画推進センター 事業コーディネーター 瀬山紀子氏

[日時] 11月4日(金) 10:40~11:30

[場所] 埼玉県男女共同参画推進センター (With You さいたま)

[記録] 吉松 法政 (3班)

埼玉県男女共同参画センターの概要や、実施している取組みについて、事業コーディネーターの瀬山紀子氏よりご説明いただいた。

## ◆男女共同参画推進センター (With You さいたま) について

○2002年4月オープン

○事業概要

- ・ 情報収集、提供事業
- ・ 相談事業
- ・ 学習、研修事業
- ・ 自主活動、交流支援事業
- ・ 女性チャレンジ事業



○情報収集、提供事業

- ・ 情報ライブラリー (図書室) の運営
- ・ 講座の内容とリンクした企画展の実施
- ・ 県内高校へのパッケージ図書貸し出し
- ・ 図書資料 男女共同参画関連の図書を中心におよそ 39,000 点の蔵書
- ・ 広報誌「With You さいたま」年3回の発行

○相談事業・・・困難な状況にある人に寄り添い、相談者一人ひとりの考え方や生き方を尊重しながら解決に向けて相談者と一緒に考える。

- ・ 電話相談 ・ 面接相談 ・ 専門相談
- ・ インターネット相談
- ・ グループ相談 ・ 男性のための電話相談
- ・ DV 被害者支援 (配偶者暴力相談支援センター機能)



○学習・研修事業・・・理解者を増やすため、個々のライフステージに応じた男女共同参画社会の推進に関する課題解決に役立つ講座・イベントの開催。  
男性視点での男女共同参画社会の推進も取り入れている。

- ・市町村職員研修
- ・男女共同参画週間講演会の開催
- ・県民対象講座の開催
- ・女性防災フォーラムの開催  
(災害時に男女共同参画での視点の必要性を再確認するため)
- ・メンズプロジェクトの開催(男性に関する課題をテーマに開催)
- ・男女共同参画社会の推進についての研修
- ・学習会の実施
- ・大学生の実習受け入れ
- ・小児医療センターとの共催講座の実施

○女性チャレンジ支援事業・・・行きづらさ、働きづらさに悩む若年無業女性や経済的に困難な状況にある女性の経済的自立・就労につながる講座の実施

- ・若年無業女性の為のグループ相談会  
年10回/6月から毎月1回(水曜日)
- ・しごと準備講座(パソコン講座+事業所体験)  
年2回/第一期 6月から 第二期 9月から

#### ◆講話後施設見学

With You さいたまは、さいたま新都心駅にあり大変利便性の良いところにある。情報ライブラリーには、男女共同参画関連を主にとても豊富な図書があり、興味を引かれるものがたくさんあった。また、各フロアには鑑賞するのに時間が足りないほどの展示物あったほか、研修・講座等で利用している人も多く、とても和やかかつ充実したサービスが提供されていると感じた。自分の生活している地域にもこのような施設があったら良いと思える場所であり、埼玉県民の憩いの場所になっていると感じた。



# 講話2「統計から考える日本の男女共同参画」

講師：国立女性教育会館 客員研究員 高橋由紀氏

[日時] 11月4日(金) 12:30~14:00

[場所] 埼玉県男女共同参画推進センター (With You さいたま)

[記録] 梁 美キ (4班)

\* 講師紹介・・・国立女性教育会館客員研究員  
高橋 由紀(たかはし ゆき) 氏

住 ま い：東京都北区

専 門：社会学、農村研究、  
男女共同参画の評価研究

地域活動：子どもの外遊び促進  
地域における女性の働く場づくり



## 1. 男女共同参画とは

「参画」・・・単なる参加ではなく、「主体的に意思決定の過程から参加すること」

「男女共同参画社会」・・・男性と女性が、互いにその人権を尊重し、喜びも責任も分かち合いつつ、性別にとらわれることなく、その個性と能力を十分に発揮することができる社会

(パレアHPより)

## 2. 男女共同参画のわかりにくさとは

意識と現実との間にズレがあるので、自ら参画しないと男女共同参画社会について理解しにくい。まずは、当事者の意識が重要であり、意識を持って参画することが大切である。

## 3. 男女共同参画についての検証の必要性

1999年に男女共同参画社会基本法が制定されたが、理念であり実態がなかった。どの部分が進み、どの部分が進んでいないのか、検証が必要な時期にきている。

⇒ 検証の材料として、男女共同参画統計データが有効。

## 4. 男女共同参画統計で何がわかるのか

\* 男女共同参画統計とは、国連が主導し、性差別撤廃という目的の下に、国際的に進められている研究と活動のことを指す。単に「男女別に集めた統計」という意味ではない。男女間の格差を明らかにする統計。

\* 数字は、客観的に現状を示してくれる

(科学的な手続きで調査された統計データが必要。国や県レベルの統計がよい。)

\* 男女別に比較することで、意識にのぼりにくい性別格差を捉えることができ、男女共

同参画の現状や課題がとらえられる

- \* 時間的に比較することで変化がとらえられる（年次推移）
- \* 客観的なデータを提示することで、啓発につながる

## 5. 男女共同参画統計の特徴

- \* 見えないものを見ることができる
  - \* 長い目で見ることができる
  - \* 変わらない部分を見ることができる
  - \* 地域差を知ることができる
- ⇒ 特に、意識は変わりにくく、30年ほど変化が少ないことがわかる。

## 6. 地域差と男女格差を読むミニ・ワーク

- ① 数字を読む
- ② 隣の人と読んで気づいたことを話す
- ③ 結果をみんなで共有する・・・どんな格差が読み取れたか？

### 【まとめ】

統計によって、ほかの研修と違った客観的な視点から男女共同参画社会について考えることができた。まず、男女共同参画について説明をいただき、その後、熊本県の取り組みや男女共同参画社会の推進の検証の必要性についてお話をいただいた。

その後、検証材料・統計データを皆で一緒に分析した。統計データによって、見えにくいものや、長い目で見ること必要性、男女の変わらない部分、そして地域差を知ることができ、この社会は様々な分野で男女格差がまだ存在することが理解できた。現状を統計データで客観化することによって、課題が明確になり、現状を変えることの必要性を認識できた。



# 交流2「埼玉県男女共同参画推進センター」

## 第1分科会 選択テーマ「思いやりを表現しよう～家庭・地域編～」

[日時] 11月4日(金) 14:05～15:35

[場所] 埼玉県男女共同参画推進センター (With You さいたま)

[記録] 井村 佳織里 (1班)

### 1. 目的

どんな場面においても相手を思いやる気持ちを持つだけではなく、その思いやりを言葉や行動で表現しなければ、その想いは相手には伝わりにくい。そこで、家庭や地域において、男女それぞれが個々の能力を活かせるよう、どのように思いやりの表現を実践していくべきか討論した。

### 2. 意見

- 男性は、女性よりも承認願望が強く、家事をしたときに頑張りを評価されたいと思う人が多いように感じる。
- 性別的役割が定着している場合、その違和感に気付いたときに、気付いた人が周りに発信し、変えていくことが大切である。
- 今までは女性がすべきことと思われていたことを男性が行ったときには、「かっこいい」と褒めることで、男性にはやる気生まれる。
- 熊本県では、男性が育児休暇を取得した場合、女性が「不甲斐ない」と評価されがちであるが、埼玉県では、「かっこいい」と憧れの存在として評価されているようだ。
- 男女共同参画に関する用語を日常的に使用することで、周囲の意識を無意識のうちに高めることができる。
- 育メンにはマイナス面もあるが、周囲には認識されにくいいため、成功例や経験談を仲間と共有することでストレスが軽減され、それぞれの得意分野を伸ばしていくことができる。

### 3. 総括

分科会では、「発信する」、「褒める」、「共有する」等の意見があり、自ら行動することが男女共同参画を推進するきっかけとなることが分かった。他人事ではなく自分自身のことであると自覚し、行動することが重要である。また、自ら行動に移すためには、周囲とのコミュニケーションや対話が不可欠である。特に対話は、きちんと言わなければ伝わらないことも多く、重要性も高いと考える。

これらを実践することで、相手への思いやりを表現し、男女それぞれが個々の能力を活かすことができる社会の実現を目指したい。



# 交流2「埼玉県男女共同参画推進センター」

## 第2分科会 選択テーマ「地域ぐるみの子育て支援」

[日時] 11月4日(金) 14:05~15:35

[場所] 埼玉県男女共同参画推進センター (With You さいたま)

[記録] 山本 美千代 (2班)

### ★事前研修時の話し合いの事柄、質問内容

- ・地域ぐるみの単位
- ・地域コミュニティの活性化（異性、異世代間の交流やつながり）
- ・子育てしやすい街づくり（若い世代が必要とする支援）

### ★埼玉県上郷町の片倉さんお話

片倉さんの住んでいる地域は、封建的な土地柄という事もあって、農家に嫁いだ女性は大変苦勞をされていた。このままでいいのかと疑問をもって勉強をはじめたことが、男女共同参画社会の実現に向け頑張りたいと思っただきっかけになったとのことであった。

埼玉県では、県が主体となって「子育て支援養成講座」を実施しており、受講者は子育てアドバイザーとして、県内で指導や講演ができる県独自の資格が与えられる。そのため、各地域に根を下ろした活動ができているとのこと。女性が社会でいかに大事で、大切な人格を持った存在であるかを再確認しながら、子育て中のお母さんたちが孤立したり悩んだりしないよう、お母さんたちに寄り添った活動をされている



### ★意見交換の中で

熊本では、PTAによる「親の学びプログラム」や長洲町では「子育て世代包括センター」が実施されているものの実態は把握できていない。農家世帯もあれば核家族化世帯もあり、子育て中のお母さんの悩みもいろいろ。今のお母さんたちが、何を必要としているのか？ニーズが何なのか？を見極めることで、コミュニティの単位も変わってくると思われる。必要としている人たちの意見を聞く場所や、反映できるシステムを構築していくことが必要である。また、子どもの虐待事例も多くある中で、異常を察知したらすぐに通報するなど、人ごとではなく、地域での見守りを続けていく必要がある。

さらに、子どもたちスマホでのトラブルに巻き込まれる例が大きくクローズアップされている。難しい問題ではあるが、この問題は、親はもちろん、おじいちゃんもおばあちゃんもみんな本気にならないといけない事態になっている。上郷町では女性議員がいることで、自分たちが学んだことを議会で問題提起してもらっている例もあるようだ。

子どもが健やかに育つことが、これからの社会を築いていくことであり、全員が問題意識をもって主体的に参加していくことが大事との結論に至った。

# 交流2「埼玉県男女共同参画推進センター」

## 第3分科会 選択テーマ「地域防災と男女共同参画」

[日時] 11月4日(金) 14:05~15:35

[場所] 埼玉県男女共同参画推進センター (With You さいたま)

[記録] 小崎 あすみ (3班)

### 【テーマ設定経緯】

4月に発生した熊本地震を実際に経験したことでさまざまな課題があることを認識したため、その課題をいかに解消できるかを、東日本大震災を経験した方の意見を聞くために設定した。

(キーワード)

- ・ 地域とのつながりについて
- ・ 住民の防災意識について
- ・ 避難所について

### 【意見交換の柱】

- ① 都市及び地方での地域のつながりの現状
- ② 災害時のそれぞれの役割とは
- ③ 避難所のあり方
- ④ 災害に対する意識を高めるには



### 【良い事例】※事前研修及び県外研修での発言

- ・ 小学校の近くに住んでいることから、家に自然と子どもが集まる環境にあった。お菓子を作り食べてもらう習慣ができあがり、防犯の面でも良いつながりとなっていて、もう何年も続いている。
- ・ 4月の大震災時、近所の大学に避難した。大学生が率先して誘導や避難所運営に携わっていた。ホームでの活躍に感心した。

### 【災害を受けての気づき】

- ・ 商業施設のトイレや避難所に男性用の育児スペースがない。
- ・ 避難所では行政職員が主体になって動いている。

### 【意見交換を交えてのまとめ】

災害時は、全ての人が被災者となる。「自助・共助・公助」の言葉のとおり、いつ何が起きてもいいように、備えが必要。さまざまな場面では、民間自ら行動し、民間では太刀打ちできない所を行政が担い、助け合っていくことが望ましい。そのためには、日頃から民間と行政が連携をとっておくことが必要となる。地域の場合も同様に、災害時はもとより、その他の地域活動に活かされるよう、普段からつながりを深めることが重要となってくる。他人事とせず、協力し合うことが男女共同参画社会の実現の一步と言える。



# 交流2「埼玉県男女共同参画推進センター」

## 第4分科会 テーマ「高齢者の地域活動への人材活用」

〔日時〕 11月4日（金）14:05～15:35

〔場所〕 埼玉県男女共同参画推進センター（With You さいたま）

〔記録〕 荒木 羽純（4班）

### 【キーワード】

- 退職した後、地域活動に入れぬ人々
- 高齢者の豊富な人生経験や知識を活かした子育て世帯や社会的に弱い立場にある人への支援活動の具体例。
- 高齢者のボランティア活動を、行政と協働していくにはどうすればいいか。
- 地域防災活動で女性の視点があるか。



### 【ファシリテーター 高野美代子さん（川口市）の活動】

#### ○友愛訪問

- ・川口市ではマンションが多く立ち並び、孤独死が増加していた。
- ・近所同士の見守りで孤独死をなくしたいとの思いから、老人会女性部で一人暮らしの老人宅を訪問する「友愛訪問」を実施。
- ・市の補助金60万円を活用し、2年の準備期間を設けた。
- ・活動内容は、声かけ、見守り、手作りのティッシュ入れの配布など。
- ・女性の家には、女性が2人以上で訪問する。

#### ○女性部便りの発行

#### ○通学の見守り

#### ○東日本大震災への支援

- ・女性の視点から必要と思われる日用品等を入れた「元気袋」を東北へ送った。

### 【意見交換】

#### ○高齢者にいかに表へ出でもらうか。

- ・定年退職した男性は、それまで地域活動に参加しておらず、退職後も地域のコミュニティに参加しづらい場合が多い。
- ・家に閉じこもりがちな高齢者が集まれる場、活躍できる場をつくるのが大事。
- ・川口市では、ダンスパーティーを開催したところ400人の参加があった。
- ・いつも同じメンバーで集まるようになると、たまにしか来れない人が参加しづらくなる。場所や内容を少しずつ変える工夫。
- ・格安で利用でき、お風呂や談話室等の設備がある老人福祉センターのような施設があると、気軽に行き人と触れ合うことができる。

#### ○人材育成

- ・地域で高齢者を見守り、支える人材の育成が課題。

### 【まとめ】

#### ○地域が一体となった高齢者の生きがいづくり

#### ○同年代への呼びかけ、仲間づくりから

#### ○男性も女性も当事者であり、「自分でやる！」という意識

# 講話3「ややこし話をおもしろく

## ～ニッポンの夫婦と男女共同参画～

講師：鶴ヶ島市職員 阪本真一氏

[日時] 11月4日（金） 15：45～17：15

[場所] 埼玉県男女共同参画推進センター（With You さいたま）

[記録] 田川 美穂（1班）

### \* 講師紹介

千金亭 値千金（せんきんてい あたいせんきん）

本名：阪本 真一 さん

87年、埼玉県鶴ヶ島町に就職。99年、結婚を機に男女共同参画に関心を持ち始める。

第2子が6ヶ月～1歳の半年間に育児休業。07年からの3年間は男女共同参画を担当。落語鑑賞の趣味をいかして、異動後も、個人として落語や歌を含む講演活動を続けている。



### 1. はじめにチェック！あなたのきもち別・値千金のメッセージ

今の世の中、性別のせいで自由に生きられない（性差別がある）か、そうではないか？という問いに対してとそうであるとすれば、あたり前の幸せが＝人権が実現していないということである。その解決方法が「男女共同参画」である

性別による差別的取り扱い（性差別）があり、それを受けないことは人権のひとつ。性のあり方に差があっても、差異に応じた必要な配慮以外は、取り扱いに差をつけない。

### 2. 創作落語『夫婦別姓』を聞いて考える

創作落語より～ ある村では結婚の際の決まりとして、夫婦2人の姓を男か女、どちらかの名字に統一することになっている。村民の意識調査で、それぞれの名字＝別姓にしてもいいという人が半分を超えたので、村長の呼びかけで、決まりを変えるかどうか、話し合いを始めた。

- ・ 別姓にしたい人は、少数だ
- ・ 少数でも幸せになれるものがいれば
- ・ 別姓の夫婦が増えれば混乱が起きる
- ・ どんな混乱だ？
- ・ 名字が別だと夫婦仲が悪くなる
- ・ 別々のほうがうまくいく夫婦もいる
- ・ 名字を同じにする村と、別々にする村と2つ作ったら？
- ・ 村は1つのまま、人間の生き方を2つに分ければ・・・

といった内容

その後、講師より日本の結婚制度と夫婦別姓訴訟について解説があった。

### 3. 歌を聴いて考える

『関白宣言』 作詞・作曲 さだまさし（1979年）

ここで、この歌詞の疑問なところや、共感できるところ、そしてこの歌は何を宣言したのかを考える。

「この歌は男性目線で、自分勝手な言い分をしているような感じがする」というような意見が多数あった。

### 4. 男女共同参画とは～すべての人がすべてのことに対等に参画できる社会

- ・ 男、女などすべてのセクシャリティー（性のありかた）の人々が、すべての地位、役割につく同じ資格で結びつき同じ条件でかかわり合う。物事の計画に参画する  
(ex) 自治会すべての会員が会長にも防災委員にも環境委員にもなれる  
(ex) 夫にも妻にも同じだけフルタイムで働く、または育児休業するチャンスがある
- ・ ジェンダーの影響で参画の機会が少なくなった女性（男性）に対して、対症療法として積極的に機会を提供する＝ポジティブ・アクション

### 5. 夫婦別姓と男女共同参画 ～夫婦同姓は「合憲」だけど・・・

- ・ 夫婦別姓は、「男女共同参画」と「日本国憲法」に、名実ともに近い状態
- ・ 夫婦は対等で、あらゆる活動に参画する機会が確保される＝夫婦同権（憲法）
- ・ 会社でいえば夫婦の結婚前の名字が両方残る対等合併である。結婚前の名字を名乗る権利が夫婦の両方にある。

### 6. どちらもエラくありません宣言 ～夫婦の幸せは、どちらかが繕うものではない。

ここで「自分語」で話すということで、さだまさしさんの「関白宣言」を聴いて思いついた、阪本さんのオリジナルの詩を披露

### まとめ

男女共同参画を自分が得意とされる落語で表現されている阪本さんに関心をもった。憲法・民法などはむずかしくてなかなか読む機会がないのだが、例をあげていただくと分かりやすいと感じた。今回は、夫婦別姓がテーマであったが、違う落語もきいてみたいと思った。



# 講話4「新しい時代の男の生き方～家庭・仕事・地域～」

講師:株式会社ソラーレ 代表取締役 東 浩司氏

[日時] 11月5日(土) 9:00~10:30

[場所] 川崎市内会議室

[記録] 田中 聡子(2班)

職業は「研修講師」、本業は「パパ」だという東氏は、意外にも月500時間労働の企業戦士だった経歴の持ち主。長女の誕生をきっかけに働き方を見直し、父親達による育児NPOに入会后、生き方が変わったのだという。そんな東氏の経験談やユーモアを交えた講話は…

【いい父親ではなく、笑顔の父親になろう！】

「プラス思考になろう！」と意識すると、逆にマイナスの方向へ。「うれしい・楽しい・幸せ・大好き・大丈夫」などの明るい言葉を口ぐせにすれば、脳にプラスのスイッチが押されてプラス思考の体質に。親がいきいきと輝いて生きる姿を見ることで、子どもたちは未来に明るい希望を抱く。



【イクメン⇔育児なし

男のあるべき生き方が変わった】

頑固カミナリ親父時代⇒モーレツ・サラリーマン時代⇒イクメン時代 と時代は変化している。

父親が子育てをすることで、子どもの興味や価値観が広がり、自己肯定感が高まる。ママも時間と精神的な余裕で育児ストレスが軽減され、パパ自身も人生が豊かになり、幸せな気持ちになれるなど、たくさんのメリットがある。しかも、育児は仕事力を高めてくれる。タイムマネジメント・段取り力・リスク管理・ストレス耐性・育成力・市場感覚・感情が豊かに(EQ)と、どれも育児に大切な項目で、会場の女性から共感の声が上がった。

注) ママは、メリットなしでも育児をしている！

【男の育児は、20年先を見越した離婚防止策】

夫に対する女性の愛情曲線は、結婚直後は約60%、出産後は約10%。その後、夫が育児に携わった場合は回復の道をたどるが、そうでなかった場合は低迷を続ける。定年離婚を連想させるグラフだった。そうならないために、夫は積極的に育児を行い、できなかった人はイクジイ(孫育て)で懺悔を！

【パパの育児は「ママのケア」が最優先】

家族を幸せにするイクメンへの道⇒子育てへの共感<育児や家事<ママに対する気遣い  
・妻へのNGワードNO.1は「手伝ってあげる」。「手伝う(=育児は自分の仕事ではない)」  
・いまどきの妻は夫のことを「ATM」「ゾンビ」と呼んでいる。ホーム(家庭)をアウェイにしてはいけない。

### 【男と女でコミュニケーション傾向が違う】

男性（的な人）＝「問題解決」、女性（的な人）＝「共感」。女性は、ただ話したいだけなのに、話の途中でさえぎって、アドバイスを始めて悦に浸っている男性にドン引きする。

### 【4つの育‘ジ’】

- ①育児：わが子の子育て＝イクメン
- ②育自：自分が成長＝親育ち・共育
- ③育地：地域を育てる＝イキメン
- ④育次：次世代育成、人類の未来創造

パパ業は地球で最も素敵な仕事！イクメンプロジェクトは、国家プロジェクトなのだ！

### 【パパのミッション】

父親たちも悩んでいる。仕事が忙しくて、育児に関わる時間がない。育児のために定時退社すると評価が下がる。子どもが「ママ」ばかりで、自分になつかない。

⇒大切なのは「孤育て」の解放。孤独、孤立な育児は、児童虐待や育児放棄へ、密室で行われる育児は、育児ストレスや産後うつにつながりやすい。笑っている父親と母親がいる家庭では、児童虐待は起きないはず。

### 【「ありがとう」から始めよう】

感謝の反対語は、あたり前。「愛している」の反対語は、「無関心」。笑っている父親の出発点は、家族に「ありがとう」と伝えること。

家庭や地域での男女共同参画は、男性自身の意識が変わらないと始まらない。また、パパたちが変わろうとしても、会社や上司が変わらなければ、変わらない。今回のお話は、是非多くのお父さん達に聞いてほしいと願う内容だった。



# 講話5「なぜ女性視点の防災が必要なのか」

講師: NPO 法人ママフラグ副代表 富川万美 氏

[日時] 11月5日(土) 10:40~12:10

[場所] 川崎市内会議室

[記録] 生嶋 祥子 (3班)

## 団体紹介

社会問題について、クリエイティブな視点で解決に取り組む団体

「アクティブ防災」のほか、女性のキャリアを豊かにする「キャリア事業」、被災母子支援などを中心に事業展開。



## 1 被災調査から学ぶべきこと

災害時の死者⇒女性の割合が男性より高い

災害時死者、関連死者⇒高齢者の割合が高い

(海外の事例) 災害時の5歳未満の死亡率や罹患率⇒他の層に比べて通常の20倍

※日常生活においても弱者と言われる層の被害の割合が高い

→過去の震災での教訓から、必要な防災のあり方が見えてくる。

## 2 過去の震災で防げたかもしれないこと

- ・妊娠初期 (お腹が目立たない) 女性⇒避難所で身体に負担大の作業に携わる⇒流産
- ・聴覚障害者⇒食事等は音声案内のみ⇒食べ損なう
- ・食物アレルギー保有者⇒災害時の我儘と批難⇒対応されず
- ・自閉症のこども⇒体育館は身体を動かす場所と認識⇒しつけがなっていないと叱責
- ・被災地の食物アレルギーのある子どもを支援したかった  
⇒ 支援が必要な人がどこにいるのか分からなかった
- ・障がい者の支援を申し出た  
⇒ 「障がいに関係なくみんな大変。障がい者はいない」と、断られた  
(実際はその避難所にも障がい者はいたが、受付で把握できておらず)

**ポイント** 誰かのちょっとした気づきがあったなら…防ぐことが出来た。

## 3 アクティブ防災とは？

- ・「備えがめんどろ・使わないともったいない・お金や負担がかかる」を真逆の発想へ
  - ・自分で考え、自分で行動 (“想定外” がより小さく)
  - ・日常生活の延長で備える (“負担” が小さくなる)
- ⇒ 生きる力を高めることになる

## 4 過去の震災から学ぶべきこと

- ・緊急時の連絡先、避難場所、避難方法は何となく決めてはある。
- ・防災グッズをセットで購入して、そのまま大切に保管してある。
- ・いざという時には、救助隊が助けてくれると考えている。
- ・大切な人の命は、自分が命をかけて守ろうと思っている。

①子連れ避難のポイント

はぐれた時のために、子ども用の避難バッグを持たせ、パーソナルカードを入れる。  
普段から「命を守る行動」を身につけさせる。

②我が家の特別な“ニーズ”は？

アレルギーや持病、障がいがある。夫が帰宅困難者になる可能性がある。  
頼れる人（親戚、家族、友人）が近くにいないなど、起こりうるリスクを考える。

③私や家族を守る避難バッグを作るポイント

生活する上で必要度が高いもの。（特に緊急度が低いとされるものは必ず備える）  
サイズがある物を優先。1品で複数の使い方ができるもの。

「常時持ち歩くもの」「第一次避難バッグ（3日分）」「第二次避難バッグ（長期）」

④女性たちのあったら良かったもの

○サニタリーショーツ    ○尿漏れシート    ○基礎化粧品セット

○携帯用ビデ    ○非常用トイレ    ○アロマオイル    ○生理用ナプキン

**※要援護者に配慮した防災は、全ての人に対応できることであり、これからの防災に活かす必要がある**

5 我が家の防災をチェック

“我が家の防災が” 自分事として検討できているか。

**※自分で考え準備をしていくことの必要性も啓発していかなければならない。**

6 子どもを守る災害時のメンタルヘルスケア

災害時の子どもの異常な行動は、非常時の正確な反応であることを知る。

心の傷の負い方は、被災の度合いに比例しない(平気そうに見えるこどものケアも大切)

7 トライ&エラー が大切！

非常食の試食。非常グッズを持ち寄り、比較してみる。

防災MAPを作成して、実際に歩いて子どもと一緒に危険箇所を確認する。

ゲームを通して子どもに防災スキルを学ばせる。

**※ここでの失敗は、災害時に起こりえること⇒防災の課題が見つかる。**

【まとめ】

4月の熊本地震においては、避難所では女性の更衣室、授乳室、幼い子どもの居場所などの確保が課題となり、支援物資でも生理用品が不足するなど、女性視線が活かされていない点があった。東日本大震災の際も、このような声が多く出たことから、同じ境遇の人達への支援、自分たちに出来る事を！と立ち上がったというママプラグ。

本研修では、日頃から障がい者、高齢者、子どもなど、生活弱者の視線で周囲の状況を観察し、困っている事・ヒトへの気づきと自分に出来ることを気遣うこと、そういった心がけはそのまま、地域社会のコミュニティ形成や災害時の支援につながるということや、日常の中に防災を取り入れることで、一人一人が自分の身の守り方や周囲への気遣いを持つようになり、それは生きる力を高めることにもなることを学んだ。

このような「女性視点の防災」アクティブ防災の考えを、行政が策定する防災計画や、地域防災への取組みにも活用できると感じた。

# 解 団 式

[日時] 11月5日(土) 12:10~12:20

[場所] 川崎市内会議室

[記録] 笹山 裕斗 (4班)

## (1) 主催者 (熊本県民交流館) 挨拶

タイトなスケジュールの中、多くの事を学んでいただけたと感じる。あらゆる分野で活躍する方々からお話を聞いてきたが、この研修で学んだことの中から自分に合った分野で活かしてほしい。

これから男女共同参画社会の実現に取り組むにあたって、私から皆さんに2点のことをお伝えしたい。

1点目は、「男女は対立しやすい」ということ。どっちが正しいかではない。互いにとってベターなもの何かを意識してほしい。

2点目は、「共感と多様性」である。共感とは求めながら広げていくことであり、多様性とは個人個人の価値観を尊重し、折り合うところを探すことである。これらのことを今後の活動の中で意識してほしい。

1月の事後研修で皆さんと再びお会いすることを楽しみにしている。最後に、元気に熊本に帰るように、事故やけがのないように各自で気を付けてもらいたい。

## (2) 団長挨拶

今回の研修でたくさんのお話を吸収しすぎて頭の中が混乱している。熊本に持ち帰って、研修で得たことを整理し、本当の目標を定めたい。

この3日間本当に楽しかった。みんなが明るく楽しく過ごせたことがなによりのことだった。本当にありがとうございました。





# 事後研修

[日時] 1月13日(金) 10:00~16:00

[場所] くまもと県民交流館 会議室1

[記録] 坂本 将幸(パレア)

## 1 講話(過去の研修生による活動事例の報告)

過去の研修修了生でつくる熊本県つばさの会と、平成23年度研修生でNPO法人あがり理事長の堀泉さんよりお話をいただいた。

熊本県つばさの会からは、会長の野中麗子さんと副会長の津志田眞知子さんにお越しいただき、熊本県つばさの会の活動や、研修後の学習についてお話をいただいた。

堀泉さんからは、ご自身の子育て支援団体での活動や、その活動に、研修で学んだ男女共同参画の視点をどのように取り入れているか、お話をいただいた。



## 2 研修団名の決定

本研修団の名称を、「地震から自信へ28」に決定した。

## 3 自主研修報告(研修生による自主企画研修の実施報告)

県外研修後、各研修生が学びの成果を活かすための自主企画による報告会等をそれぞれの職場、地域活動内等で実施し、その内容について、1人3分程度の発表を行った。

各研修生、自主研修を通して新たな学びや気づきがあった様子であり、県外研修での学びがそれぞれの意識に影響を及ぼしていることが伺えた。

その後、自主研修報告について、熊本県環境生活部県民生活局田中局長と熊本県つばさの会より講評があった。

## 4 意見交換会(今後の活動について考えるワークショップ)

初めに、各班に分かれ、各自で考えた企画のアイデアを出し合って、班内の意見を一つにまとめた。各班ともに活発な議論となり、研修を通じて、男女共同参画社会の実現に向けて、研修生の意欲が高まったことが感じられた。

その後、各班の意見を発表し、全体で多数決をとった結果、「防災グッズや防災食についてのワークショップ」を開催する事に決定した。

## ～県外研修中の一コマ～

班のメンバーとも打ち解けてきた研修2日目。午前のWith You さいたまの視察を終え、昼の休憩時間。班のメンバーから「ご飯どうする？一緒に食べよう」の声が。それから班の皆で施設内のタニタ食堂へ。ランチは数に限りがあるというので気持ち早足で向かう。今日のメニューは鯖定食。やはり何事にも体が基本。研修は明日までであるので、ここで栄養補給ができそうだ。

他の班の方も一緒に食事をしたが、自然と会話が弾んでくる。これもおいしい食事の力だろう。

テーブルにはタイマーが置いてあり、20分間掛けて食べる。それは脳が満腹とを感じるように、良く噛んで食べる為だ。熊本にはないお店なので、これも+αの知識として持ち帰りたい。

午後の研修もしっかり噛み砕き学びたい。



原 恭平(1班/合志市)

2日目の研修場所はさいたま市。川崎市から貸切バスで片道1時間半の大移動。帰りの車中では、研修の感想を話したり、和気あいあいとした様子。バスはどんどん進んでいくが、行きとは違う道を通っているような…。高層ビルが増え、大都会の雰囲気。すると、運転手さんから「東京の夜景を楽しんでください」とのアナウンス。ルートを変更して、熊本からやって来た私たちへのサプライズだった。東京タワーや六本木ヒルズ、レインボーブリッジのキラキラした景色。歓声があがり、みんな大喜びで記念撮影。特に、東京タワーのオレンジ色は本当にきれいで、見とれてしまった。

最後には、参加者の中にお誕生日の方がいて、みんなでハッピーバースデーを合唱した。感動を共有し、絆が深まったひと時でした。ありがとうございました。



荒木 羽純(4班/上天草市)

# 個人レポート





## 1班

### 研修で学んだこと

#### 豊里 幸 (荒尾市)



私は政府の「一億総活躍社会の実現」「女性活躍推進」というフレーズに違和感を感じている。なぜなら、家事育児や介護の上に、女性にもっと働いて税金を納めろと言われていたような気がするからだ。

上っ面な机上の空論ではなく、現実を良く知って欲しいと思った。しかしそれと同時に、果たして私自身もその現状を理解しているのだろうか？という疑問が沸いてきた。そんな時、男女共同参画社会づくり地域リーダー育成事業の募集を知り、自分もしっかりと学ぶべきだと思い、参加を決めた。

エセナおおたでは、男女や年齢に関係なく、施設を有効利用できるように工夫されており、防災の啓発についても、地域に浸透するようにと努力されていた。高齢者の繋がりの場となったり、子育て世代との交流や、性差を超えての交流ができるような取り組みがなされていた。住民に真剣に向き合い、より良い形を目指して頑張っている職員の方々、ボランティアスタッフの方々のお話を聴くことができ、大変有意義な時間を過ごすことができた。

また、「行列のできる講座とチラシの作り方」の講話では、坂田理事長の「集客できない言い訳をしない！」という言葉に共感した。企画力・広報力向上の為にどのようにすべきか、手にとってもらえるチラシにするにはどのように工夫すればよいかなど、知っておきたい知識を凝縮して教えて頂けた。どの分野でも今後役立つに違いない。

With You さいたままでの、「統計から考える日本の男女参画」の講義の中では、数字ばかりの資料からこんなことまで分かるのかと驚いた。現実を知るためにも統計を理解することは必須なのだ実感した。男女共同参画創作落語で

は、難しく思える男女参画を面白く小話にして伝えて頂き、興味深かった。

最も楽しみにしていた、最終日の「新しい時代の男の生き方」の講話では、子育て世代のパパ・ママの家庭内での男女共同参画のためのアドバイスが多く含まれており、パパ達の子育てへの戸惑いも理解できた。互いへの思いやりが子どもにとっても、夫婦にとっても良いサイクルを作ってくれる。子育てに関わりたいたいけれど、どこまで踏み込んでいいのかわからない男性側の気持ちも知ることができ、とても勉強になった。

「なぜ女性視点の防災が必要なのか」の講話では、東日本大震災での事例をお話いただき、実体験に基づいた防災に関するお話が心に響いた。熊本で起こった地震の際も、女性視点の防災は重要視された。非常事態であるから仕方がないと軽視されがちなのも、日頃から想定して取り組んでおく事で、問題を回避できるかもしれない。「防災ゼロをゼロに！」というキャッチフレーズを地域に持ち帰り、浸透させていきたいと思った。

今回の研修で、男女共同参画も防災もワークライフバランスも全て「思いやり」を共通のテーマとして1班は取り組んだ。「思いやり」は万国共通であり、年齢や性差を超えて伝わるものだ。

一見難しく捉えがちな男女共同参画も、ほんの少しの思いやりから始めてみると、沢山の人の心に浸透していこう。

今回の研修で学んだことを地域活動に活かすことが、私の男女共同参画への第一歩に繋がると思う。

### 啓発を目指して

#### 原 恭平 (合志市)

私は現在、合志市の男女共同参画推進懇話会委員として活動していて、行政の方からはもちろんだが、各法人代表者の



話をお聞きすることもある。そこで感じているのが、まだまだ男女共同参画は社会に浸透していないということだ。家庭、仕事、福祉等。もっと勉強や経験を積みたい今回参加させて頂いた。

研修初日は大田区立男女平等推進センターエセナおおたの視察から始まった。

ここは区民の方が気軽に来られる場所として、調理室、音楽室、工房、子供室、情報・図書コーナー、ホール等が揃っている。使用料が有料の場合も低料金で利用できる。何より、区民同士が顔を合わせられる場所として活躍している。

午後の研修は坂田静香さんによる講話「行列のできる講座とチラシの作り方」から始まった。合志市の懇話会でも毎年講演会を行っているが、必ず悩んでしまうのが集客だ。どうしてもチラシにのせる演題は、堅苦しく、男女共同参画を学ぼうという気持ちにはならない。ここで学んだ事は懇話会で伝え、共有して活かしていきたい。

また、男女共同参画社会の推進、そして仕事でも活かさなければならぬのが、PDCAサイクルだ。失敗を繰り返さない為にも、皆で話し合い、見直す事を改めて学ばせて頂いた。

2日目の埼玉県、With You さいたまでの午後の意見交換会でも、男女共同参画社会推進のための啓発活動の話になった。初日の坂田さんの講話にもあったが、地域性の違いは必ずある。しかし、埼玉県の青木さんより地域性は活かすものだという話があった。知らない人をどう巻き込むか、関係者だけで進めるのではなく、市民参画を我々啓発する側が自覚しなければならない。そして、実際にやってみた事として、紙芝居や地域の祭りなどのステージでの男女共同参画のPRについてご紹介いただいた。熊本県でも取り入れていきたい。

最終日のファザーリングジャパンの東さんの講話は、全国の働く男性に伝えていきたい話だった。昔は“企業戦士”“24時間戦えますか？”など、男性はとにかく家にいなかった。時代は変わり、女性の社会進出が進んできている現代、育児のやり方も変わっている。父親も育児に“参

加”しているのだ。しかし、この“参加”と言っているのは間違っている。どこかよそよそしい言葉だ。父親も育児をする事が、普通になればいいけない。

最後のママプラグ副代表の富川さんの防災についての講話も、地震があった熊本には是非持ち帰りたいし、特に一番の身近な家族に話したい。

誰もが不平不満がない男女共同参画社会への道のりはまだまだだと思ふ。しかし理想は常に持ち、少しでも理想に近づけるように、自分にもできる、伝える事を継続していきたい。

## 地域リーダー研修に参加して

田川 美穂 (和水町)



今回、この研修には和水町男女共同参画懇話会の方々の勧めで参加することになったのだが、まず私にとって、2泊3日家を空けるということが非常に悩むところだった。子どもが3人おり、末娘が年少で、夫にすべてを任せて行くのは、決心が良かった。だが、家族の協力があり、安心して研修に参加できた。

まず1日目のエセナおおたでの研修で、私が一番関心を持ったのは、センター長はじめ職員の皆さんが、以前は施設利用者だったという事だ。やがてそれがボランティアに参加するようになり、指定管理などに携わるというのは、できそうでなかなかできないことではないかと思う。それによって、より市民に近いところで運営できているからこそ、施設利用者などが多いのではないかと思う。そして残念だったのが、指定管理者が運営するパシオン東京を見学できなかったことだ。私は仕事上、自営業の方や起業している女性、そして、いまから何かやりたいと考えている女性と知り合うことがとても多い。私自身、地元和水町で補助金等を活用してコミュニティスペースなどを作っているため、家賃を払えるだけの収益を出している

パシオン東京は機会があれば是非見学したいと思った。

坂田静香さんの講話は、是非、和水町のたくさんの方に聞いていただきたいと思う内容であった。企画力・広報力の向上は集客において必須であるため、その概念を考えさせられる内容で、今後、SNS等の集客にも活用していこうと思う。

2日目のWith You さいたまでは、まず「統計から考える日本の男女共同参画」というテーマの講話を聞いた。この統計では、男女差、地域差が一目瞭然で、九州においては、女性の文化的時間が少ないのが著しかった。統計だけでも、色々なことを考えさせられる内容であった。

次の講話では、阪本真一さんが夫婦別姓について落語で口演いただいた。なかなか落語を聴く機会がない私は、どのような内容なのか想像もつかなかったのだが、非常にききやすかった。そして、さだまさしさんの「関白宣言」を聴いて思いついたオリジナルの詩は、女性からすると、是非発表してほしいような内容であった。

最終日の東浩司さんの講話は、今までにないパパ目線からの男女共同参画であった。私も今回、夫に家事や子どもの世話全てをまかせて研修に臨んだわけだが、夫は家事にも育児にも積極的に参加してくれる。私たちは、家庭内での会話を非常に大切にしている、それによって進みたい方向を一緒にでき、ケンカなどが起きにくく、考えをシェアできている。東さんのお話は、とても具体的だったので、すぐに実践できるものだったばかりだった。家で夫と研修内容をシェアした際に、まず私たちにできる事として、ファザーリングジャパンに登録をしようかと話し合った。

次の富川さんのお話は、子育て世代の私たちが共感できる内容であり、熊本地震の避難所でも活用されていたものであった。私たちは熊本地震で経験したことを、富川さんのように伝えていかなければいけないし、次に災害に遭った際に自分の子どもを守る防災を目指したい。

今回研修に参加したことで、男女共同参画を自分の中に落とし込み、まわりに伝えていきたいと思う。そして、今回このような機会をあたえてくださった方々や県スタッフの方、リーダ

ー研修生の皆、家族に感謝申し上げたい。

## 研修に参加して

### 平野 利和（玉名市）



私の入庁は平成11年、男女共同参画社会基本法が制定された年だった。右も左も分からないまま公民館勤務をしていた私にとって、始まったばかりの男女共同参画社会についての啓発活動は、「なんだか難しいそう」というイメージだった。そういう感覚のままにいた私に、市役所庁内の男女共同参画委員の声。「なにごともしよう」と飛び込んでみたのはよかったが、意外に自分の興味分野に近いなあと思った。私は地域活性化や住民自治について興味があり、いろんな活動のかたわら、セミナーなどに自主的に参加している。そこでのテーマは大筋「だれでも過ごしやすい地域を、当事者がつくる（＝自主、自立）」というもの。男女共同参画社会にも、「社会的性別を超えて自分たちの暮らしやすい社会を築く」というのが通奏低音として流れていると思う。

そして今回のリーダー研修。そういった「自分たちの暮らしやすい社会に変えていく」男女共同参画社会の推進について啓発するために、リーダーとしてどのような役割があるのか？というテーマで臨んだ。まず、研修先として訪れたどの施設や団体も、本当に多様な顧客接点を持っていた。しかも、その切り口に気付くように、周囲のバリアを出来るだけ抑えようとしていた。例えば、男女共同参画についての落語、チラシづくり、情報発信のためのライブラリー、相談員の配置など、バリアを低くするための様々な努力だ。

また、リーダーとしてこのような力量も必要だなと感じたことがあった。研修中大変多くの講師が用いていた手法で、講演の途中、参加者同士を話し合わせ、自分の考えをとりあえず表明する体験をさせていた。なかなか、講演会の途中で自分の考えを口に出すことは少ない。し

かしながら、それによって自分の考えを苦ししながらもまとめることができた。聞き役になってくれた方の意見は頭にあまり残っていないのだが、とても貴重な経験だった。こういった手法を学ぶのも、いい経験だったと思う。

さて、この男女共同参画社会をどのように伝えるか、新たなテーマが出来たわけだが、まずは対話できる空間を作る必要があるようだ。良質な対話を築くには、安心空間を作る必要がある。しかしながら、世の中には多様な考えがある。いかの個々の気づきに持っていか。このテーマを元に、活動していければと考えている。

最後に、わきあいあいとしていた1班のみなさんありがとうございました。とってもいい対話ができたとと思います。

## 心に余裕が生まれた研修

### 井村 佳織里 (和水町)

今年の4月から、町の男女共同参画担当となり、知識も経験もなかったが、学んでいくうちに元々興味のある分野であったことや、自分でも様々な経験をしていたことに気づいた。そして、この研修を通してさらに知識を深めることができ、研修に参加する機会をくださった皆様にとっても感謝している。

これまで経験したこととは、性的役割分担や夫婦別姓制度について疑問を持ったことがあり、家庭生活において家事の分担が上手くいかず、イライラすることが多かったこと等だ。この研修により、これら解決法として、コミュニケーションや対話の大切さを実感することができた。そして、以前よりもお互いを認め合い、相手を思いやる気持ちを表現することができるようになり、心にゆとりができた実感している。

事前研修での、県職員の方の「人生において幾度とはない、心が揺さぶられる瞬間がある研修となるだろう」という言葉がとても印象的であったが、実際にグラグラと心が揺さぶられ続



けた3日間だった。

これからの人生において、「思いやりを表現しよう」をモットーとして、個々の能力を活かすことができ、みんなが笑顔で心にゆとりのある生活ができる男女共同参画社会の実現へ向けて、励んでいきたいと考える。



## 2班

### まず、私から

#### 田中 聡子 (山鹿市)



私が研修に参加させていただいた理由は、「自分の無知を知るため」。

男女共同参画＝男女平等と認識し、女性の権利を主張するためのものだとばかり思っていた。先の東京都知事選やアメリカ大統領選挙のときも「女性初」という言葉がクローズアップされた報道に、「女性がなればよいというものではないだろう」と疑問を感じていたのだ。

今回の研修は、様々な観点から男女共同参画を考える内容で、自分の考え方のズレを見直すことができた。女性の権利主張だけでなく、老若男女問わずみんなが暮らしやすく、幸せになることが根底にあると分かったからだ。

特に、統計資料から見た男女差は、衝撃的だった。まず、家事に費やす一日の平均時間が、女性が3.45時間で男性は0.24時間であることに目が行き、腹立たしさを感じた。しかし、女性に比べ男性の収入労働時間や自殺率は、約2倍となっていた。長時間労働と重責によるストレス…。男性は家事育児をしないのではなく、する時間がなかったと捉えることもできる。このアンバランスさを解消するために、女性が社会に進出することは良いにしても、これまでの男性と同じ働き方で、長時間労働や、家庭や自分を犠牲にするものであっては意味がなく、また、男性も家事や育児、介護に携わることで



きる働き方への移行が大切だと思う。

他にも、多様な視点と気づきから取り組む防災、これからの時代の男性の生き方、チラシ作りのノウハウなど、収穫の多い研修で、どのようにアウトプットしていくべきか、何から始めればいいのかと混乱してしまった。

まずは、男女共同参画を意識した日常生活を送り、多くの人に広めていきたいと思う。



## 夢の実現に向けて！

### 山口 法子 (菊池市)

この研修に参加したきっかけは、菊池市職員の方々からの推薦だった。自分が認められた気持ちが出て、正直嬉しかった。その後、なんとか家族に承諾をもらって参加することができた。

初日のエセナおおたは、ワクワクするような講座がたくさんあり、色んな機能が集約されていて、とても素晴らしい施設だと思った。チラシ作りについての講座では、『企画が悪いから集客ができない。言い訳をしない仕事をしよう。』と言われたことが心に残った。今後の活動に役立てると思った。分科会では、女性視点の防災について話し合った。これからは、女性のリーダーが必要だという意見が出た。まずは自分からリーダーになろうと決めた。

2日目のWith You さいたまでは、老若男女を問わず、全ての人たちにとって問題解決へと繋がれる施設だと感じた。統計についての講義では、数値化することで実態がはっきりすることがわかり、改善すべき点 がみえてくる。男女が心地よく暮らすためには、統計は必要不可欠なものだと思った。分科会では子育て支援について話し合った。どの地域でもスマホに関する問題は深刻 だと思った。自分の姿を子どもたちに見せることの大切さや、昔とは時代が違うので完璧を求めなくていいという言葉が心に残った。阪本氏のお話では、オリジナルの詩が印象的で、男女共同参画の成り立ちが良く



わかった。

最終日、ファザーリングジャパンと、ママブラグの方のお話を聞いて、初日からなんとなく感じていた自分の中の点と点が線になった。お二人の話は感動しなかった。私がこれからやりたいと思っていたことが、結びついた瞬間でもあった。

研修から帰ってすぐに、私は行動へ移すことができた。これからの夢の実現に向けて一歩ずつ踏み出している。今回の研修には感謝の気持ちしかない。私の背中を押してくださった方々、ありがとうございました。



## 研修に参加して

### 田中 緑 (長洲町)

米国大統領選では、初めての女性大統領誕生か否かと注目され、日本でも女性都知事が活躍されている。この地域リーダー研修に参加する以前は、男女共同参画の詳しい内容を理解しておらず、ワーク・ライフ・バランス等の知識のみしかなかったので、今回の研修を非常に楽しみに参加した。

・エセナおおた

NPO 法人男女共同参画おおたの坂田静香理事長の「行列のできる講座とチラシの作り方」の研修では、「企画力」と「広報・PR力」の重要性を学んだ。特に、「主催者の目的を前面に出さない」、「対象者を徹底的に絞る」等、チラシ作りを基礎から学べ、職場でチラシ作りに苦戦・奮闘している私にとっては、「目からうろこ」の素晴らしい講座となった。

・With You さいたま

埼玉県男女共同参画推進センターでは、充実した図書室や就業支援関連の施設を見学した。利便性がよく、輝いて見える施設だった。

国立女性教育会館の高橋由紀客員研究員の「統計から考える日本の男女共同参画」では、数値化することで客観的に物事を見る事を学び、これからの男女共同参画社会の推進へ、更



なる取り組みの必要性を強く感じた。

・意見交換会は、

「男女共同参画の視点で考える地域防災」と「地域ぐるみでの子育て支援」の2つのテーマで臨んだ。長年活動されているボランティアの方々から、地域の中でのネットワークの作り方や、「まずは、自分から」の精神等、アドバイスを頂いた。その貴重な体験や取り組みは、私の今後の地域活動の目標になり大変参考になった。

・最後に

このような機会を頂き感謝。

パワーを与えて頂いた講師の先生に感謝。

この研修に参加された皆さんに感謝。

2班の皆さんに感謝。



## 先ず臆(かい)よりはじめる 国家プロジェクト！！

堀田 香澄 (大津町)



2泊3日の県外研修は、男女共同参画社会について、ただ単に「男女平等」という、ふんわりとしたイメージしか抱いていなかった私が、具体的に何が問題なのかを考え、知るきっかけとなった。

県外研修前の事前研修では、男女共同参画会議が内閣府に属しており、国の重要政策である事を初めて知り、研修に参加する事に責任の重さを感じた。

少子高齢化が進んだ労働力減少の時代に、国際競争を視野に入れた「戦力」としての女性の労働力が必要となり、「男は外で仕事、女は家で家事育児」などと言っては行かない。法の下での平等としての「男女平等」の実現に向け、今後より一層の努力が必要であり、男女共同参画社会の実現は、国として緊要な課題である事を学んだ。

女性が社会進出を目指すには、女性へ向けた支援や格差是正だけではなく、男性の家庭進出が必要であると、県外研修3日目に、ファミリーリングジャパンの東氏より講義を頂いた。大いに同意するが、ここで重要なのは、男性の家庭

進出が、「主体的」であるかどうかだと思う。ポイントは、「自主性」と「理性」と「主体性」。

①「自主性」がある人は、率先して行う事自体が重要で、決まった事しか出来ない。また、褒められたり認められないと、「こんなに頑張っているのに・・・。」と不満がでる。

②「理性」があれば、頭で理解しているので、行動する。良い事だからしなくてはならないと思う半面、心では面倒臭いと思う。

③「主体性」があれば、自分の意思で決断し、目的をもって行動する。「やらされている」のではなく、やりたいからやっている。そこに面倒臭いという考えなど存在しない。

現在の日本では、残念ながら、男性の家庭進出は①と②、自主性と理性とで行われているのが現状であると思う。その半面、女性は③の主体的な家庭進出を期待している。お話によると、「パパからママへのNGワード」の第1位が、「手伝ってあげる」との事であった。自主性と理性を更にステップアップする事、手伝うのではなく、当事者意識を持ち、協力者から主体者への意識改革をする事が必要であると思う。

男性の主体的な家庭進出が進めば、女性の社会進出も進み、男性の社会的負担軽減や、「一家を養う」といった精神的負担や責任の重さの軽減にもつながり、ひいては男性の家庭生活の充実に繋がるのだと思う。

今回の研修で、多くの角度から男女共同参画の重要性や推進の手法について学んだ。中でも、熊本地震を経験した事もあり、地域防災について考える事はとても有意義であった。有事に対応するには、向こう三軒両隣の精神が必要で、日頃からのご近所のコミュニケーションが必要であると学んだ。また、災害弱者とも呼ばれる女性だからこそ、女性視点で意見が言えるリーダーが必要で、それは何か大きな事をするのではなく、不都合があれば、先ずは自分から声を発信して、周囲への理解を広めていく事が重要であると学んだ。ここにも、他人任せではなく、主体性が必要であるのだと思う。

男女共同参画社会の実現という壮大な国家プロジェクトを達成するには、私達一人ひとりが自ら当事者意識を持ち、何事にも主体性を持つ

事が重要であると思う。今回の研修で学んだ事を周囲へ発信し、「先ず隗よりはじめる国家プロジェクト!!」をキーワードに、地域へフィールドバックしていきたい。



## 私にできることから

### 山本 美千代 (菊池市)



この研修会に参加した理由、それは、他でもなく今年4月に男女共同参画推進課に異動してきたためであった。

とは言え、この半年間いろいろな研修に参加する機会をいただく中で、時代が動いていると感じることもしばしばである。本当に時代が動いているのか、もしくは私が無関心だったためにこれまで気づけていなかったのか。とにかく超少子高齢化の波に飲み込まれようとしているこの時代にあって、私たち自身も変わらなければならない時期にきているのではないかと思っていた。

そんな時期にこの研修に参加させてもらったことは大変有意義だったと思う。

最初に訪問したエセナおおたでは、まず職員のみなさんの素敵な笑顔のおもてなしに、この研修の不安も吹き飛んだ。「行列のできる講座とチラシの作り方」の講話では、何といっても企画がしっかりしていること（対象者が絞られていること）、人が集まらなかったことを、人や天気の良いにしないことなど身につまされる思いで聞いた。また、交流会でも、東日本大震災以降、継続的・積極的に研修や講座などの取り組みを実施しておられ、もっと具体的な話を聞きたいと思うほど、あっという間に時間が過ぎてしまった。

2日目の、With You さいたまでは、「統計から考える日本の男女共同参画」の講話や、創作落語を通して男女共同参画推進をされている鶴ヶ島市職員の阪本さんの話を聞きながら、客観的なデータや、落語という自分の特技を使った講演など、色んな形での推進や啓発があり、自

分にできることは何なのかを自問する機会となった。まだ答えは見出せていないが・・・。

エセナおおたも、With You さいたまも、男女共同参画を推進するための施設と専門スタッフがいることで様々な事業が実施できている。さらに、それぞれボランティアの活動も盛んで、住民参加や市民協働をどう進めるかも、わが市にとって重要な課題ではないかと思った。

そして3日目。最初の講話は、実は私が最も期待していたファザーリングジャパン理事・東浩司さんによる「新しい時代の男の生き方」と題してのお話だった。時代のあるべき父親像が、頑固親父⇒企業戦士⇒イクメンへと変わってきていること、男性が職場だけでなく、地域や家庭にちゃんと居場所を作ることの必要性に納得させられた。

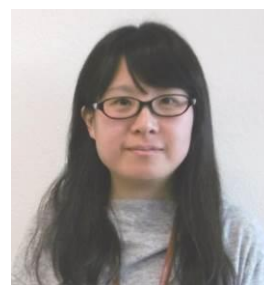
最後は、「なぜ女性視点の防災が必要なのか」と題しての講話だった。要援護者に配慮した防災は、全ての人に対応できるということ。熊本地震を経験した今だからこそ見えてくる課題にちゃんと対応していくことが、今後の災害に備えることに繋がると思った。

この3日間の研修で、参加者はもちろん、講話や交流会を通して多くの人に出会えたことが、私にとってのいちばんの宝となった。まだ頭の中があれもこれもと錯綜している状態だが、今の自分に何ができるのかを考え、これからに活かしていきたいと思う。もちろん、私にできることから。参加された皆さん、団長の山口さんをはじめ、お世話いただいた田中さんや坂本さん、本当にありがとうございました。



## 研修に参加して

### 大津山 恭子 (山都町)



私は、山都町役場の職員として、上司からの薦めでこの研修に参加した。「男女共同参画社会づくり地域リーダー育成事業」と銘打たれていた研修であったものの、私自身、男女共同参画についてほとんど知識がなかった。実際、男女

共同参画と聞いても、家庭や地域においてはまだまだ男性優位の社会で、「男性・女性が性別に関わりなく平等に」というのは大変難しいことだと漠然と感じていたため、研修に参加するまでは不安もあった。

今回の研修では、2泊3日という行程の中で、大田区やさいたま市の施設での男女共同参画社会推進のための活動や、防災、男性の育児参加など、様々な立場で活動されている方のお話を伺うことができた。当初は、3日間びっしりと詰め込まれた研修スケジュールに少し戸惑いも覚えたが、1日、また1日と過ぎるにつれ、次第に私の中の男女共同参画に対するイメージが少しずつ変わっていったように思う。

私がこの研修を終えて、特に印象に残っているのは、以下2点のことである。まず第一点目には、「男女共同参画は男性にとっても女性にとっても生きやすい社会をつくることである」という点である。これまで男女共同参画の取り組みは、男性にとっては、女性が行なう家事や育児に参画しなければならず、良いことがないと思われているのではないかと勝手に思っていた。しかし、高橋由紀氏の統計に関する講話や東浩司氏の講話などで、男性の自殺者率の高さや男性の生き方なども、男女共同参画に関する問題だということを認識でき、性別に関係なく、全ての人が生きやすい社会を実現することこそが男女共同参画社会推進の目的であるということが良く分かった。

第二点目には、「男性・女性というだけでなく、人間一人ひとりが多様な存在であり、それぞれが自己を認識するとともに、他者を認め合える社会をつくるのが大事」という点である。これは、富川万美氏の、防災における男女共同参画の重要性についての講話において、自分自身の“防災”を考えたことがあるか、という問いを考えるなかで、はっと認識させられた。この講話では、防災グッズを作る際にも、人それぞれの環境やニーズが異なるため、男性・女性というのみでなく、個人で自己を認識し備えなければならないということ学んだ。また、同時に、災害という現場では通常時よりも特に様々な人々がいるという認識がなければ、地域や人の命を守ることはできないし、諍いを生む

のだと強く実感した。

最後に、この研修に参加して、同じ班のメンバーや交流した方々など、活発な女性に数多く出会うことができた。行政の職員として様々な方と出会い、お話を聞いたことで、男女共同参画社会に関する認識が大きく広がった機会であったと思う。また、男女共同参画についての問題は、主管課のみならず、数々の行政の事業推進のすべてに関わることであることも分かった。個人としても、家庭や地域活動に密接に関わっている。男女共同参画の考えから学んだ、「性別や年齢等にとらわれず、全ての人が認め合える社会に」という視点を忘れず、今後の仕事や生き方に活かしていきたいと思う。



## 3班

### 研修に参加して

#### 山本 敬晃（八代市）



私は熊本大学法学部の鈴木桂樹教授のゼミや授業で男女共同参画社会について学んでいたが、実際にその実現のために活動している団体や人々のお話を伺ったことがなかった。また、今年結婚し、子どもも生まれたので、これからどのように夫婦生活や子育てに取り組んでいくべきかを考えるために今回の研修に参加することにした。

今回の研修で最も印象に残った講話は「行列のできる講座とチラシの作り方」である。講師の男女共同参画おた理事長・坂田静香氏は、申し込みが多かった講座と少なかった講座の例を示し、講座を開催するうえで大切なことは「企画力」と「広報力」であると強調された。その中で、目的は「男女共同参画社会を実現するため」であるが、チラシでは「男女共同参画」が目的であることを強調しない方がよいということであった。悲しいことではあるが、過去の事

例が示すように「男女共同参画」を前面に出したチラシでは集客ができていない現実があった。これから男女共同参画社会を実現していくためにも、男女共同参画社会にあまり関心がない人に向けて、その人々のためになる、ゴールが見える企画を実施していく必要があると強く思った。

私の参加動機に最も合っていた講話は、最終日に行われた、ファザーリングジャパンの東浩司氏による「新しい時代の男の生き方」であった。まず、いい父親ではなく笑っている父親になろうというお話があった。少し前の良い父親とは仕事をバリバリ頑張る父親だが、今はイクメンという父親像が広まっているということである。また、パパの育児というのは「ママのケア」が最優先という話には感銘を受けた。私もおむつ替えやミルク、お風呂など育児に取り組んでいたつもりであるが、ママのケアというのはあまり考えていなかった。たまに、一人での外出などができる時間を作っていたが、積極的にケアをするということはしていなかった。これからは育児をしていくうえで、妻ともしっかりコミュニケーションをとっていかうと思う。

今回の研修に参加して、座学では得られない多くのことを学ぶことができた。これからは自分でも意識して男女共同参画社会の実現に向けて地域で取り組みながら、周りの知り合いにもこの研修に参加することを積極的に進めていきたいと思う。



## 研修を終えて

渡邊 利香 (人吉市)

一生懸命働く父と愛情一杯に家族を守る母。典型的な性別役割分担家庭



で大切に育てられた私にとって、男女共同参画社会という言葉は、どこか遠い存在にある。「共同」を掲げながら、なんとなく対立的な印象が否めないし、LGBTの方々に対する配慮にも欠けるような気がして、事前研修を受講しながら

らも、「もしかして、私には場違いだったのではないか」という思いが、正直なかなか払拭できなかった。

県外研修に参加し、また、自らでの学習を進めるなかで、すべての疑問が氷解したわけではないが、男女共同参画社会が、当初自分なりに抱いていたイメージとは、随分かけ離れていることも知ることができた。

単に、男女というくりにこだわることなく、すべての人が、自分らしく生き生きと暮らせるような社会にしなければならないという意見を数多く耳にし、人々の意識は、基本法が描いた理念を、すでに大きく越えているように感じられた。また、夫婦が決めたことは誰からも干渉されないということも、専業主婦を指向する若い女性が増えているなか、共感できることであった。

ただ、ライフスタイルの多様性を確保することと出生率向上とは、やはり両立しにくいものではないかと思う。よって、安心して出産や子育てをすることが可能となるよう、雇用継続を希望する女性への制度整備とあわせ、一旦離職した女性の再就職についても、更なる拡充を図っていく必要があると思われる。

障がいのある方々の就業支援という形で、地域への恩返しをさせてもらいたいと考えていた私であったが、今では、自分のまわりでも増えつつある、シングルマザーへのバックアップにも携わりたいと思い始めている。

このような機会を与えていただいたパレアの方々、共に学んだ研修生の皆さま、ありがとうございました。そして最後に、私を信じ応援し、研修参加に何も言わず、笑顔で送り出してくれた夫に感謝しつつ、ペンを置くこととした。



## 押しつけない啓発を！

小崎 あすみ（上天草市）



4月の熊本地震を経験した今回の参加者。経験を力にパワフルな方が参集したと感じている。私は、男女共同参画担当2年目で、担当として男女共同参画社会づくりをしていくうえで、男女共同参画の意義や防災との関わりなどを学び、さらには個人のスキルアップにつなげたく参加した。初めは不安だったが、3日間有意義な研修だったと思う。

3日間の研修をとおして啓発を進めるうえでの勉強になったことがあった。

イベントを企画する際、作成することの多いチラシ。集客のツールとして使うチラシに『男女共同参画』の文字は固く、避けられやすい。チラシに目を向けてもらうには、対象者のニーズや、流行のものなどを取り入れるとよい。そのためには日頃からの情報収集が大事で、イベントの集客には広報力と企画力、そして職員の熱意が必要とのことだった。消化作業とせず、対象者にどうなってほしいかを明確にすることが重要だ。

また、With You さいたまの施設見学の際に、コップに紫色のストローが何本も入ったオブジェがいくつも見かけた。これは、オブジェそのものに意味はなく、このオブジェを置き、目を引かせ、そのついでに図書などに目を向けさせるためとのこと。まず『なんだらう？』と思わせ、そこに男女共同参画について付け入る。この面白い発想はすぐ実践できると感じた。

同じ公務員による、落語での啓発。自分が得意とすることで男女共同参画の啓発ができることはすごいこと。仕事のみで啓発するのではなく、自分ができるところから実践していくことから始めたい。

最終日の2つの講話は、男性が家庭や地域へ参画することと、多様な視点を取り入れた防災の必要性についての内容だった。最近の男女共同参画社会づくりの啓発でよく耳にするテーマだが、私自身、具体的にどう啓発したらいい

かわからなかったが、現状を把握し、どういうメリットがあるのかを伝えることがポイントだと思った。「目から鱗は4割にとどめる」、「10割を目指さなくていい」といったお話をいただき、肩の荷が降りた気がする。

3日間の研修で、「男女共同参画」を前に出さず、難しく考えないで、できることから、できることを実践し、公私両方向から発信していくこと、そして、「最終的に男女共同参画」に繋げることが、男女共同参画社会の実現の第一歩だと学ぶことができた。

研修参加の目的としていた、男女共同参画の意義や防災との関わりについての学習と、自身のスキルアップは、3日間で達成できたと実感している。

今回学んだことを発信し、次回の研修参加者の輩出も促していきたい。



## “知るこゝ”の大切さ

生嶋 祥子（天草市）



○もともと、「自分は好奇心は人より少し多めではないか」と思っていた。

この研修には、色々な人との出会いがあり、新たな学びもできる、なんという素晴らしい研修かと、単純な考えから参加した。

○初日、大田区立男女平等推進センター・エセナおたの施設見学の際、当該センターの報告書の中に、日々の生活の課題が男女共同参画の視点で振り返った時に解決の糸口となり、気づきと行動変容が生まれるよう事業企画からアウトカムし、その成果として、自主グループの立ち上げ、地域活動への参画、男女共同参画推進サポーターの育成につながったとあった。

そこに至る第一歩、人々の関心への働きかけとなるチラシの重要性や、事業実施の目的や成果を見据え、熱い想いを込めチラシを作成することなどを学んだ。

こうして、私の研修が始まった。

次に、各班テーマに沿った交流会（分科会）。

3班では「ワークライフバランスを地域で進めるためには」をテーマに、地域の課題の一つである、男性の育休取得率の低さなどを克服するため、先進地の取組から学ぶことを目的としていた。しかし、実際は熊本も大田区も、男性の育休取得率は低いことが判明した。翌日の講話「統計から考える日本の男女共同参画」にもつながっており、このことから、具体的な数値（データ）、統計を読み取る力、検証の必要性があり、そのためには、科学的な手続きで調査された質の良いデータを使うことの重要性を知った。しかし、このようなデータを基に地域の現状課題について顔を合わせ語り合い、解決策を見出すことも大切だと思う。

○地域や個人によっては、数値に表せない課題もある。個別課題として取り上げられた「新しい時代の男の生き方」や「女性視点の防災の必要性」などの講話については、参加者それぞれの生活環境からの視点、また実際に地域で活動中の参加者の想いなど様々であろう。

「女性視点の防災の必要性」の講話では、『あなたは防災担当の職員（既婚・こども有）。災害時緊急招集に応じる？応じない？』との問いがあり、正しい答えが出せない現実的課題があることを知った。「困っていることはありませんか？」「“あったらいいな”を実現する」。この講話の資料で頂いたパンフレットの見出しである。自分だけでなく、誰もが住みやすい社会を構築するため、数多くの人々が関わる活動が多数あることを知った。

それらの活動で大きなパワーが生まれることも実感した。今回の参加者の方々も強いパワーの持ち主ばかりだった。

何も知らなければ、何も出来ない。愛情の対義語は「無関心」。

私は関心“知る”から始めよう！



## 地域リーダー研修に参加して

吉松 法政（五木村）



私は今回の研修に参加するにあたって、特に「男女共同参画の統計」「女性視点の防災の必要性」「イクメン」の3つの点について深く学習したいと考えていた。

研修に参加する以前は、メディア等で「男女共同参画」の言葉を目にしても、気にとめることは無かったし、正直、他人事のように思っていた。しかし、研修参加後は、不思議と目にとまるようになった。この点が少しでも「男女共同参画」について理解が深まり、推進していかなければならないとの意思ができた実感しているところである。「男女共同参画の統計」からは、日本全体的に女性にかかっている負担が多いことが分かった。この点は必ずや解決・改善していかなければならないことである。今般、男女平等が進んだ北欧社会がメディア等で紹介されているが、進んでいる国においても初めからそういった状況ではなかったことを知り、研修で学んだことを少しずつでも実行していけば、日本、さらには熊本県でも実現できるということを感じた。

「女性視点の防災の必要性」については、今年県内で震災が起きたが、乳幼児の授乳する場所や、プライバシー等の問題で女性が安心できる場所など、女性の立場にたった対策等が不足していた。講師からも色々な場所でそのような事例があったとお話があり、東日本大震災以降も日本全体での改善ができていないように感じた。私も役所で働く者として、今後身近に震災等が起こった際、出来ることが多々あるので、行動を起こさなければならぬと強く感じた。また、日頃から備えておくことが一番大切であり、自分が男性なので女性視点というのは、少々難しいと思うが、女性職員と連携しサポートをしていきたい。

「イクメン」については、日本ではやはり子育て家事等で、女性に多くの負担をかけている。実際には個々の職場にも男性が取得できる育休

等があるが、なかなか取得出来ない状況にある。身近なところから少しずつでも改善できるような取組みが必要だと思う。また、育休に限らず、家事洗濯等の役割分担を再確認し、女性ばかりに負担がかからないようにしたい。

今回は、今まで生活する中であまり気にとめていなかった「男女共同参画」がよりいっそう身近になった研修であった。ただ思う・考えるだけではなく、しっかり行動を起こし公私ともに充実した生活を送れるように日々努力したい。

## 4班

### 県外研修についての感想

梁 美キ (八代市)



#### 感想 1

日本に来てから、こういうことを言われたことがある。「よくすっぴんで歩けるね」、「女の子なのに、何でいつもスニーカーを履いてるの?」と。このような話をした人たちにとって、私はどうやら女らしくないようだ。すっぴんもスニーカーも何の問題もないと思うが、褒められたつもりで黙るだけだった。

研修の中で一番印象に残ったのは、あるチラシのタイトルの「男女」という漢字の上に、「ひと」と書いてあったところであった。そもそも一人一人はそれぞれ違う生き物で、違うからこそ、この世界が面白いのではないだろうか。製品でもないのに、「〇〇だから△△だ」という公式はあまりにもつまらないものである。

ジェンダーという問題の本質は人の個性を尊重しないことにあると考えている。人は自分の持っている「常識」を他人に当てはめようとしがちなので、その問題を根本的解決することは無理であろうが、まず「他人は他人、自分は自分」という信条を、自分なるべく守りたいのである。

#### 感想 2

三日間の研修の中で、一番心を動かされたのは阪本真一氏が『関白宣言』を聴いて思いついたという、阪本氏のオリジナルの詩であった。『関白宣言』の、女性が無条件に男性に尽くす歌詞と比べると、阪本氏の詩が伝える男女平等の意味は鮮明的な対比になっている。短い詩が、どんな講演よりもずっと心に残り、考えさせられた。

メディアは人に大きな影響力を持つので、ぜひ阪本氏にこの詩をパブリックなところで披露していただきたいと思った。

#### 意見 3

今度の研修は一分間の無駄もなく、とても勉強になった。文句はないが、あえて意見を言うならば、勉強だけでなく、研修生を男女共同参画に関するプロジェクトなどの実践に加えてもらうのはいかがであろうか。あるいは一年度だけのものではなく、希望者だけでも継続的に何かの活動に参加できるような制度があればいいと思う。

### 「愛」の反対は、「無関心」

下村 淑子 (八代市)



『夢は、十回口にすると「叶う」  
十一回言うと「吐く』』と言う。

今回の研修では、人との出会いもそうだが、大変実りの多いものだった。男性が、男女共同参画社会推進のための活動に参加したり、講師をされている姿は時代の変化を感じた。

厚生労働省が打ち出している「育メンプロジェクト」。研修講師の東氏によると、「育メン」の反対は、「意気地（育児）なし」だという。

パパの使命は、「孤育て」による児童虐待や育児放棄や育児ストレス等の解放にある。そのメ



リットを「ロジック」「データ」を示すことで、「メリットが理解できれば男は動く」と言われた。これは、男女共同参画社会を推進するための大きなヒントだと思った。

子供にとっては、「安心感、自己肯定感、健やかな成長」、ママには「ストレス軽減」、パパには「人生が豊かになり、幸せな気持ちになる」という“メリット”を理解する事で「パパスイッチ」を入れる事が必要だという。

今、男性は「頑固カミナリ時代」、「モーレツ・サラリーマン時代」を経て「育メン・育ジイ・育ボス時代」へと変遷している途中なのだ。微力ながらその後押しをさせていただくのが、私達地域リーダーの役目であると思う。

日本では、男性の自殺率は、女性の2倍。毎日約50人の男性が自殺しているのが現状なのだ。男性は、昔は、「濡れ落ち葉」、「産業廃棄物」などと呼ばれ、今は、「ATM」、「ゾンビ」と呼ばれている。女性は、1日2万語、男性は8千語話すと言う。男性は、苦しさを抱いていても、口に出せないのではないか。

「パパ業は、地球で最も素敵な仕事」という考えを「ロジック」と「データ」で理解し、動く事によって、男性も解放され、女性も解放される。そして、子供は、「パパとママから愛されている」と自信を持ち、非行などに走る事なく、感情豊かに健やかに育つのではないか。

男女共に「4つのイクジ」をしっかりと理解し、実践していきたいものである。

- ①育児：育メン
- ②育児：親育ち・共育
- ③育地：域メン
- ④育次：次世代育成・人類の未来創造

日本人は、努力家である。あの戦後復興を短期間にやり遂げた行動力がある。忍耐力、根性もある。

日本は、世界に手本となれる精神力がある。必ず、成し遂げられる。



## 研修に参加して

### 岡 早百合（宇城市）



私たちが生活していく中で、一番身近な「男女共同参画社会」。その社会づくりの実現に向かって、自分もその中の一人として、挑戦したいとずっと思っていたときに、今回の研修の話があり応募した。

研修に参加して、人として自信に満ちあふれ、きらきらと輝く素敵な方たちと出会い、私自身大きな刺激を受けた。最初のエセナおたでの講話「行列のできる講座とチラシの作り方」では、講師のひとつひとつの言葉、積極的な考え方に感銘を受けた。「集客が少なかった場合は、人や環境のせいにしがちな主催者が多い」「集客をあげるには、3つの重要な取組を！」という言葉は心に響いた。開催する講座の目的がわかる、魅力あるチラシづくりに挑戦したいと勇気もらった。

交流会では、「男女共同参画の視点を地域・職場・家庭に」をテーマに交流を行った。その中で、男の生き方塾の話や、男性の退職後の居場所づくりについて興味を持った。チラシを300枚ほどあらゆるところに配り、掲示板にも貼ったりと、一人ぼっちの人を作らないために、ボランティアの方たちが居場所をアピールしている優しさに感動した。

With You さいたまでは、図書室や就職支援、キャリア教育センターの運営のほか、男女共同参画を推進するためのキーパーソン人材育成、女性のさまざまなチャレンジの支援、キャリアカウンセラーをはじめとした支援者向けのブラッシュアップをサポートするなどの、学びと交流の場が設けられていて、まさに最先端だと感じた。

「統計から見る日本の男女共同参画」の講義や、創作落語での「夫婦別姓」問題なども考えさせられる内容だった。交流では、人と人とのつながりを作るために、女性部で「元気ぶくろ」を作成し配布する、友愛訪問という取り組みに感動した。

最終日の「新しい時代の男の生き方」の講義では、イクメンにも、えせイクメンやイクメンもどき、やりすぎイクメンもいることや、時代の流れの中で、頑固おやじ⇒モーレツサラリーマン⇒イクメンと、男のあるべき生き方が変わったこと、そしてイクメンになることで、仕事力が高まるという話に共感した。

3日間の盛りだくさんの研修に感謝です。男女共同参画社会づくりの実現に向けて色々なことにチャレンジしようと思う。人を尊重し、お互いが支え合い、みんなが幸せになるために、男女共同参画社会があるのだと私は確信した。もっと知識を深め、女性が活躍できる新しい社会に向けて「女性活躍推進法」などを活かしていきたい。



## 意識改革こそ社会を変えていく

熊谷 和信 (菊陽町)



昭和45年、私は高校卒業と同時に川崎市内の自動車下請け工場に就職した。

当時の日本は、高度経済成長期にあり、男性の労働力が求められていた。労働力が即報酬に反映される好景気の時代であった。こうした社会のシステムの中、競争社会において「男は仕事、女は家庭」という意識が強烈に形成された。そして、今なおこの意識は存在している。

今回の県外研修は、その川崎市に拠点を置き、男女共同参画社会づくりについて学ぶことを目的とした内容で、私の意識改革を図るに相応しいものであった。

私は川崎市でサラリーマン生活をスタートした後、職を転々とし教員の免許を取得し、教師への道に無事着地した。4年前に定年退職したが、私の時代遅れの固定観念をなんとかすべく、また、これから地域や家庭の中で、いかに生きていくべきかを問い直す機会として、今回の研修に臨んだ。

今回の研修で訪れた大田区立男女平等推進センター「エセナおおた」での「男の生き方サロ

ン」についてのお話や、ソーレ代表の東浩司氏の講話「新しい時代の男の生き方」を聞き、私の中の「男は仕事、女は家庭・育児」といった性別役割分担の考え方は、これからの時代にそぐわないということ、実感をもって学ぶことができた。東氏が「父親学校」を開校し、仕事のための生き方ではなく、地域や家庭に積極的に関わり、豊かさとは何かを求めているという話にも共感を覚えた。父親像として望まれることは、難しいことではないという。「いい父親ではなく、笑っている父親になろう」との提言に反省しきりの私であった。また、夫から妻へのNGワードのナンバーワンが「手伝ってあげる」だという指摘もあった。確かに私は日常的に家庭で「何か手伝ってあげる」と言う。これは相手より自分が潜在的に優位に立って「～してあげる」という言葉遣いになる。言われた妻にとっては、決して快いはずではないことに初めて気づかされた。

埼玉県男女共同参画推進センター・With You さいたまでの意見交換会では、「高齢者の地域活動への人材活用」をテーマに話し合った。私達の班のファシリテーターとして、川口市在住で高齢者ボランティア活動に取り組んでおられる高野さんという方をお迎えした。高野さんから、地域の独居老人宅を積極的に訪ね、地域の結びつきを作ろうとする活動をご紹介いただいた。高齢者のこうした活動が行政を動かし、市が助成金を出してくれるようになったと熱く語っていただき、まさに老人力を感じた一時であった。

定年退職した男性はとかく「用済み」とされ、家庭でも居場所もなく、地域コミュニティに知り合いもないことが多い。こうした仕事中心に構成されてきた自分の生き方を根本から見直すよい機会となった。「女だから」「男だから」といった社会規範を開放し、性別にかかわらず自分らしく生きる社会づくりを、今後心がけていくつもりである。施策や行政を頼りにするのではなく、私たち一人一人の意識づくりが社会を変えていくエネルギーになり得ることを学んだ3日間だった。



## 男女共同参画地域リーダー研修に参加して

荒木 羽純 (上天草市)



今回、私がこの男女共同参画地域リーダー研修に参加することとなったのは、人権教育の担当をしていたことがきっかけだった。

業務の中で人権講話の出前講座を行っていたが、参加者の多くが女性で、数ある人権問題・テーマの中でも、「女性の人権」に対する関心は高かった。「夫婦間で何と呼び合っているか」というテーマのときには、男性が女性のことを名前では呼ばず、「おーい」などと呼ぶという話には、多くの方が納得していた様子だった。「男女共同参画」という言葉には、「分かりづらい」や「よくわからない」といったイメージを持ちがちであるが、男女共同参画について身近に意識できる一面であったように思う。

私自身は「男女共同参画社会」の意識の大切さは理解しているつもりだったが、これまで男女の不平等感を体験したことがあまり無かったため、研修に参加するにあたって少し不安があった。

エセナおおたに到着すると、職員の方々に笑顔で出迎えていただき、緊張が和らいだ。男女平等推進センターというと、どんな施設かと思っていたが、図書室や音楽室、ホールなどが設置され、市民の方が気軽に訪れ、男女共同参画社会についての情報にも触れることができる施設だった。

研修では、「行列ができる講座とチラシの作り方」と題した坂田静香氏による講話があった。人権教育の業務で、研修や講演会を行っても、なかなか思うように集客ができていなかったため、とても楽しみに思っていたが、正直、男女共同参画とどのような関係があるのが疑問ももっていた。「人が集まらない講座の言い訳」として紹介されたものには、「天気の良いにする」、「市民の意識が低い」など、私が心の中で言い訳のように思っていた言葉ばかりだった。多くの市民に講演会等に参加してもらい、意識

啓発につなげるためには、企画力・広報力を向上させることが重要であり、今後の業務に活かしていける内容だった。

その他にも研修中の意見交換では、自身の経験からの考え、現在の家庭の中での悩み等、参加者の様々な思いを聞くことができた。私がこれまで男女の不平等感を体験していないと思っていたのは、男女共同参画についての意識が低く、おかしな点に気づかないまま、その現状を当たり前としてしまっていたのではないかと考えさせられた。

今後は、研修で学んだことを身近な人から少しずつ伝えていき、男女共同参画の推進に貢献していきたいと思います。



## 男女共同参画のまちづくりを目指して

笹山 裕斗 (宇城市)



今回の研修に参加して、自分の中の男女共同参画社会についての視野が広がった。男女共同参画社会という言葉は、これまでも教科書やテレビなどのメディアで目にしており、私の中ではジェンダーをはじめとした「女性だから」「男性だから」といった偏見を見直していかなければならないものだと考えてきた。では、実際に自分が行政の立場になった時、果たして何をすればいいのか？何ができるのか？という問いには、とにかく、女性のためになることをしなければならぬ、女性と職場、女性の収入、女性が抱える悩み、女性のための取組み等々、どれも「女性」を対象とした考えばかりだった。

研修の中で現在の日本社会を振り返ると、男性によって作られた社会構造であり、仕事の現場がそうであるのだから私生活も「男は仕事、女は家事」のように男性主体の仕組みになってしまっていることを改めて認識させられた。そんな環境の中、男女の暮らしはうまく成り立っているのか。統計資料を見れば、男性は仕事で疲弊しており、過労死や自殺の発生率は世界で

も悪い意味でトップクラスであり、女性においては就業率や収入が世界的に見ても低い数値を出している。また、結婚の晩婚化、少子高齢化、人口減少が社会問題として叫ばれ続けている。これまでの社会構造に限界が見えてきていることは明らかである。

つまり、今一層求められている男女共同参画社会の実現のために必要なことは、男性の暮らし・生き方を見直すことである。そこで必要となる考え方の一つに『ワークライフバランス』を私は挙げる。社会構造の主体となってしまう男性の仕事と私生活のバランスを見直すことで、女性が参画できる社会を築けると考えるからだ。

男性の過労を改善するために、例えば、個人の負担が大きいことに対してチーム制を取り入れ、担当者の一人が不在でも仕事が回るようにする。実現すれば、男性は休みを取りやすくなり、育児に追われる女性の負担軽減に繋がると考えられる。

男性側を変えていくという考えは、エセナおたでの研修のおかげである。最も印象的だったのは、男性向けの講座を開き、そこでの活動を通じて男性側の意識変革を進めていることだ。退職後の男性や育児中の男性に対して働き掛けていく事で、男女共同参画社会を目指す仲間づくり、まちづくりに繋がっていた。

男性主体の社会構造を男性のワークライフバランスの面から見直していく事で、女性が参画できる機会を増やす。そのためには男性側の意識を変えていき、男女共同参画の視点を浸透させていかなければならない。

今回の研修で学んだことを一つでも多く実現できるように、世間にアンテナを張り巡らせ、男女が共同して参画できるまちづくりを目指した企画の立案・実施・反省・改善を繰り返して行く。



# 自主企画研修報告書





# 「研修報告会」

[1班：豊里 幸（荒尾市）]

日時	平成 28 年 12 月 22 日（木）
場所	エポック荒尾
参加者	研修参加者 1 名、コスモス会 8 名
形式	研修報告会、意見交換会
ねらい	今年度の研修内容について報告を行い、荒尾市でどのように活かしていくかについて話し合う。
内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・男女共同参画社会づくり地域リーダー研修（県外研修）での学びを報告する。</li><li>・荒尾市女性国内交流派遣事業及び地域リーダー研修参加者 OB で構成されている「コスモス会」と懇親を深める。</li><li>・荒尾市で今後、どのように男女共同参画を推進していくかについて、意見交換を行う。</li></ul>
感想等	<p>研修の内容が分かりやすいように、スライドを用いて発表した。</p> <p>今年は熊本で大きな地震が起きたこともあり、防災に関して学んだことを重点的に報告した。</p> <p>「女性視点の防災を」「防災ゼロをゼロに」というキャッチフレーズを荒尾市でも浸透させていきたいとお話した。公共施設での防災グッズの展示を推進していくことで、防災を身近に感じることができると思う。</p> <p>また、女性が社会で躍進してゆくために、どのようなことを実践していけばよいかについても話し合いができた。</p> <p>地方ならではの伝統や風習があり、良い点も沢山あるが、女性を蔑視したり、苦しめる点もあるので、男女共同参画を推進していく上でマイナス面にもなっているという意見も多々あった。</p> <p>今回の研修でのテーマに、1 班は「おもいやり」を選んだこともあり、私は「防災においても、女性が活躍できる社会を創る為にも、ほんの少しの思いやりから始めてゆくことが大切だと、県外研修を通じて学ぶことができた」と伝えることができた。</p> <p>研修参加後に、このような報告会を開いていただけたことに感謝したい。</p>



# 「研修報告会」

[1班：原 恭平（合志市）]

日時	平成28年12月21日（水）
場所	職場内（紀水ナーシングホーム）
参加者	紀水ナーシングホーム職員 6名
形式	座学・講義型研修
ねらい	父親の育児をする意味 女性視点の防災 　　の主に2点について啓発を目指す
内容	NPO 法人ファザーリングジャパン理事 東氏 NPO 法人ママプラグ 代表 富川氏 の講話をまとめ資料作成した。 【ポイント】・時代によって男性の生き方が変わった ・父親が子育てするメリット ・“イクメン”言葉だけが一人歩きしてないか ・なぜ女性視点の防災が必要か ・自分のニーズを考えてみる ・子供を守る災害時のメンタルケア etc
感想等	【父親の育児について】 ・男女平等、ワークライフバランス、女性の社会進出、その枠にはめようとする程、育児は追いつかない。まだまだ風潮が追い付いていない。 ・ワークライフバランスは、個々の割合が違う事を理解してほしい。 ・父親が育児をする事で、子供、母親、父親それぞれにメリットがあるという事はとてもいい事で、勉強になった。 ・“イクメン”という言葉にもメリット、デメリットがあることがわかった。 【防災について】 ・震災時は皆パニックだから、人より自分になる。自分、家族の為にも、バッグなどの準備、助け合える仲間作りの重要性を思い知った。 ・熊本地震でも女性や高齢者、子供等に不便な事がたくさんあったと思う。 ・自分の家族と話し合い、避難用バッグなど準備したいと思う。





# 「男女共同参画研修報告会」

[1班：田川 美穂（和水町）]

日時	平成28年11月9日（水）
場所	和水町役場本庁2階庁会議室
参加者	和水町男女共同参画懇話会 8名
形式	研修報告及び意見交換会
ねらい	研修の報告と意見交換を行い、今後の和水町における男女共同参画社会について考える
内容	本年の研修に参加した2名がそれぞれ報告  それぞれが自分の視点で、時系列で持ち帰った資料等を使い、感想を交えながら報告。 和水町懇話会メンバーによる質疑応答。
感想等	<p>懇話会メンバーには過去の研修に参加した方がいらっしやり、その時との違いなどについて質問があった。</p> <p>皆さん、パシオンTOKYOに非常に興味をもたれ、そのような施設に視察に行きたいとの意見もあった。</p> <p>今回熊本では地震があったため、防災については、東北の震災時より情報が新しいと私個人が感じていたという正直な意見を報告会ではお話しした。和水町内に、懇話会メンバーで県内外で講演活動をされていらっしやる柳原さんがいらっしやるので、個人的に防災についてお話を聞くことが多い。今回の熊本地震では、東北の震災の時との大きな違いとして、より早く情報が拡散されるSNSがあった。たくさんの情報があるなかで、どの情報を自分にとってプラスにするかなど、新しい防災のあり方を少しご提案させていただいた。</p> <p>以後も懇話会メンバーと和水町の男女共同参画について考えていくとともに、次回の研修にも、どなたか参加していただきたいと思った。</p>



# 「男女共同参画研修報告会」

[1班：平野 利和（玉名市）]

日時	平成28年12月21日（水）
場所	玉名市役所4階 第2委員会室
参加者	玉名市男女共同参画社会行政推進委員会
形式	発表およびダイアログ
ねらい	玉名市男女共同参画社会行政推進委員会第2回専門部会において研修報告会を実施
内容	<p>今回の研修について簡単にまとめたパワーポイントの資料を作成し、それを基に報告した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○エセナおおた <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設見学</li> <li>・講話「行列のできる講座とチラシの作り方」</li> <li>・意見交換会</li> </ul> </li> <li>○With You さいたま <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設見学</li> <li>・講話「統計から考える日本の男女共同参画」</li> <li>・意見交換会</li> <li>・講話「ややこし話をおもしろく～ニッポンの夫婦と男女共同参画～」</li> </ul> </li> <li>○X-FLOOR <ul style="list-style-type: none"> <li>・講話「新しい時代の男の生き方」</li> <li>・講話「なぜ女性視点の防災が必要なのか」</li> </ul> </li> </ul> <p>また、研修内容を深めるためにワークショップを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマは「どうしたら一步をフミダスことができるのだろうか」</li> </ul>
感想等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（男女共同参画社会が）自分の仕事と通じるなあと感じました。もっと市民全体で、こんな話、働きが一緒にできるようになればいいなと思います。</li> <li>・ちょっとした気づきからフミダスことに繋がり、それが新たな人生の転機や変化に繋がっていくと感じました。</li> <li>・小さなことでも興味があれば踏み込んでみる。そんな風になればいいなと思いました。</li> <li>・男女共同参画といったテーマで難しく考えると複雑ですが、みんなで話し合い、ささいなことでも「ふみだす」ことなんだなあと感じました。</li> <li>・自分の考えを表現することに慣れていないなと感じました。</li> </ul>



# 「研修報告会」

[1班：井村 佳織里（和水町）]

日時	平成28年11月9日（水）
場所	和水町役場 本庁2階庁議室
参加者	和水町男女共同参画懇話会委員 7名、和水町職員 1名
形式	研修報告会
ねらい	研修で習得したことを参加者と共有し、今後和水町において男女共同参画社会を実現させるための手がかりを探る。
内容	3日間の県外研修の内容を報告し、分かったこと、感じたこと、考えたこと等を参加者へ伝え、質疑応答や討論を行った。
感想等	<p>見学した施設のことや習得したことについて、全てを漏らさず伝えたいという想いのもと、これらを和水町にはどのように活かしていけるかについて考えながら報告をした。</p> <p>参加者は、興味津々に報告を聞いてくださり、先進的な施設の良さやこの研修を通じて私自身の心が揺さぶられた瞬間や感心した事柄について、しっかりと伝えられたように思う。</p> <p>男女共同参画社会を実現したいと思いつつも、何をどうしたら実現できるのか掴めない現状の狭間で、皆がそれぞれに葛藤していることがよく分かった。大田区やさいたま市で行われていることの全てが和水町でも実現すれば、町民や職員の意識も徐々に変化し、現状が好転することは明らかであろうが、すぐに叶うことではないため、自分にできることから少しずつ行動に移し、周囲とのコミュニケーションや対話を充実させることから始めてみようと思う。</p>



# 「多様な視点から見た防災」

[2班：田中 聡子（山鹿市）]

日時	平成 28 年 11 月 8 日（火）
場所	山鹿市立八幡小学校
参加者	PTA 運営委員 18 名（校長、教頭含）
形式	報告
ねらい	熊本震災から 7 か月。ライフラインも途絶えることなく、比較的被害の少なかった山鹿では、防災意識がすでに薄れつつあるように感じる。今一度、防災についてともに考え、男女共同参画の視点からみた防災の必要性を訴える。
内容	<p>1. 「熊本地震から約 7 か月が経ちましたが、防災対策はされていますか？」と冒頭で質問を投げかける。          やっている…5 名、十分ではない…5 名、何もやっていない 8 名</p> <p>2. 防災の必要性について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「サバイバース・ギルト」で今も苦しんでいる人がいる          そんな思いをしない、させない → 全員が生き残らなければならない自分の命、家族の命を守るための対策を！</li> <li>・家具の固定・家族バラバラになったときの集合場所決めなど</li> <li>・家族のニーズに合わせた防災グッズを揃えること          その非常食を、子供が食べてくれるのか？ → お菓子・ゼリー飲料・レトルト食品で OK。期限が来る前に食べてしまっって新たに買うというローリングストック法を紹介</li> <li>・平時から心がけておくこと、決めておくべきこと          近所間でのコミュニケーション（どこにだれが住んでいる）          災害時、子供を見る人がいない → 子連れ出社？休んでいい？</li> </ul> <p>3. 避難所運営について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な視点と気づきが必要</li> <li>・「お困りのことはありませんか？」の声掛け</li> </ul>
感想等	熊本地震から 1 年も経たないうちに、防災への意識が薄れ始めている現実を目の当たりにした。直接の大きな被害はなかったものの、同じ県内で災害を経験した今こそ、防災対策や避難所運営について話し合い、今後も受け継いでいかなければならないと思う。幸い、私の住む山鹿市の八幡地域では、地区ごとの祭りや行事が盛んに行われていたり、地区単位での活動が数多く残っている。まずは、一人ひとりの防災意識を高められるような声掛けと、地域防災組織の現状把握を行いたいと思う。

# 「地域リーダー育成研修 自主研修報告書」

[2班：山口 法子（菊池市）]

日時	平成28年11月30日（水）
場所	某ショッピングセンターフードコート
参加者	ママ友6名
形式	茶話会
ねらい	研修で学んだことを報告し、主婦にも意識を持っていただく。
内容	地震のときに感じたことを素直な気持ちでぶっちゃけトーク！！
感想等	<p>ママ友からの感想</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・水が一番困った。米も炊けない。</li><li>・ウォーターサーバーがあると良かった</li><li>・水を大切にすることを子供が覚えた</li><li>・ボランティアしたくても小さい子どもがいるといけない</li><li>・実は、ボランティアをしすぎて家庭が壊れているケースもある</li><li>・ボランティア活動をして名前を売っている人もいた（SNS にのせてピースサインで写っていたり…。）</li><li>・生活に余裕のある、身なりのいい70歳代ぐらいの人がボランティアに来られていて、そんな年のとり方をしたいと思った</li></ul> <p>私の報告と感想</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・地震の時に小さな子どもを抱えた主婦は、どのような行動をとればいいのか悩んだ方がたくさんいた。避難所でも、ミルクや生理用品がないなど、女性が困ることが多かったようだ。だからこそ、これからは一人でも多くの女性のリーダーが必要になるそうだ。その一人に今日集まった皆さんがなっていければと思う。</li><li>・防災の研修会などを学校等でも取り入れて、しっかりみんなで学びたいと思う。</li></ul> <p>今回は身近な友人を対象にしたことで、ぶっちゃけ話も出てきてよかったと思う。これからも近いところからのコミュニティーを大事にしながら、男女共同参画に取り組みきたい。</p>

# 「男女共同参画研修報告会」

[2班：田中 緑（長洲町）]

日時	① 平成28年12月8日（木） ②12月18日（日）
場所	① 長洲町高齢者支援施設 「げんきの館」 ②自宅
参加者	① 職員 5名 ②家族・男女共同参画に関心のある方 4名
形式	研修報告会・意見交換会
ねらい	地域リーダー育成研修報告 男女共同参画への理解
内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・研修内容の報告</li><li>・身近な「男女共同参画」についての意見交換</li><li>・「行列のできる講座とチラシの作り方」について</li></ul> 以上、配布資料を用いて説明する。
感想等	<p>今回の研修で学んだことを、資料を基に報告したが、「男女共同参画」について聞いたところ「男女平等のことである」との答えが多く返ってきたり、「男女共同参画」の社会的背景や意味を伝えると、「へー」と驚きの声も聞かれた。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・まだまだ、男女の固定的性別役割意識や習慣が強く残っている。</li><li>・女性を前面に出し、声高に言い過ぎるのではないか</li><li>・男性の理解が足りない</li><li>・家庭に父親が不在のため、母子家庭と思われている。</li><li>・「行列の出来る講座とチラシの作り方」については、チラシ作りに非常に興味があるので本を読みたい。</li></ul> <p>等々のいろいろな意見が出て活発な意見交換会となったが、「男女共同参画社会」についてはまだまだ浸透していないようで、これからの更なる取り組みの必要性を強く感じた。</p> <p>今後は、「まずは、自分から」を実行し、発信しようと考えている。</p>



# 「地域リーダー育成研修 自主研修報告書」

[2班：堀田 香澄（大津町）]

日時	平成28年11月28日（月）
場所	大津町人権啓発福祉センター
参加者	人権推進課 5名、隣保館職員 6名、児童館職員他 3名、 計14名
形式	研修報告
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前研修及び県外研修の内容を報告し、情報を共有する。</li> <li>・自身の気づきや学びを周知する事で、研修の成果や内容を自他共に確認する。</li> </ul>
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前研修及び県外研修の内容を、それぞれ時系列で報告。</li> <li>・研修で得た気づきや学び、自身の考えを報告。</li> <li>・県へ提出する個人レポートの発表。</li> </ul>
感想等	<p>事前研修も、2泊3日の県外研修も、内容がとても充実しており、私にとって大変有意義な研修であった。どんな内容の研修を受けて来たのか、参加者に知ってもらうため、時系列で報告をした。</p> <p>分かりやすくまとめて報告をしたつもりであったが、いざ発表すると、だらだらと長くなってしまった。聞いてもらうだけではなく、もっと視覚や身振り手振りで訴えるやり方の方が、研修内容をもっと具体的にイメージしてもらえたのではないかと思った。自分が発表してみて改めて、研修先での講師の方々のプレゼンテーションが素晴らしいものであったと再認識した。</p> <p>今回は、私なりの解釈や私の考えで報告したが、きっと、別の人が研修に参加したのならば、三者三様、別の考えや気づきや学びがあったはずだ。男女共同参画の多様性を考えた場合、私達は「男女共同参画社会」という山頂（ゴール）にむかった一登山者だ。今回研修に参加したそれぞれの登山者が、それぞれの置かれた立場や状況で紆余曲折しながらも、自分なりのルートを築き、その情報を周囲へ発信し、仲間を増やしながら山頂を目指すことが、地域リーダーの役目であると思う。</p> <p>やり方は1つではない。私なりに個性と能力を発揮し、啓発活動へ繋げていきたい。</p>



# 「地域リーダー研修報告」

[2班：山本 美千代（菊池市）]

日時	平成28年12月2日（金）・平成28年12月19日（月）
場所	菊池市中央公民館 大研修室および小研修室
参加者	菊池市男女共同参画審議会委員8名・菊池市女性団体代表者会10名、事務局2名
形式	菊池市男女共同参画審議会及び菊池市女性団体代表者会議において報告
ねらい	地域リーダー研修の報告に加え、今、特に問題となっている人口減少や労働力不足から考えられる問題等を提起し、男女共同参画の推進の必要性を再認識してもらう。
内容	<p>『地域づくりリーダー育成事業県外研修報告』と題して、研修内容の時系列順に、写真などを入れてパワーポイントを作成し、報告を行った。</p> <p>特に、エセナおおたでの「行列のできる講座とチラシの作り方」で聞いた話をもとに、1月に開催する職員研修のチラシを作ってみたり、With You さいたまでの、「統計から考える日本の男女共同参画」の講話にならって、これまでいろいろと参加した研修の中から、特に伝えたい内容をグラフや数値を使って説明することを試みた。</p>
感想等	<p>どちらも会議終了後に報告会を実施したため、説明も早口になってしまった。全てを詳しく説明することはできなかったが、「エセナおおた」も「With You さいたま」もセンターとして総合的に運営されていることから、委員からは、菊池市の生涯学習センターの中に入ることはできないのか？等の質問もあった。また、今回は報告に加えてグラフや数値を使いながら人口減少の問題等も説明したが、上手く伝わっただろうかと感じた。まとめること、伝えることの難しさを改めて感じた。参加した委員さんから、「学んできた多くの事や今後の課題・問題がわかり、時代が変わっていることを実感した。」との感想をいただき、少しは肩の荷が下りた気がした。</p> <p>このリーダー研修に参加して学んだことや、参加した方々とのつながりを、これからにも大事にしていきたい。</p>





# 「男女共同参画に関する講演会」

[2班：大津山 恭子（山都町）]

日時	平成28年12月4日（日）
場所	矢部保健福祉センター千寿苑 多目的ホール
参加者	山都町内及び上益城郡内の住民など 約60名
形式	講演会
ねらい	女性の地域での活躍、地域づくりへの参画を推進するため、先進地の講師を招いて講演会を行い、男女共同参画の意識を広める。
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山都町女性の会の平成28年度活動として、女性のための講座「魅力アップ塾」（年間4回）の企画運営を実施。（第1回～第3回まで食に関する講演会や話し方講座など。）</li> <li>・第4回目の講座は、上益城地域男女共同参画連絡会議と共催形式を取り、「男女共同参画を考えよう」と題した講演会を計画した。</li> <li>・有限会社ひまわり亭（人吉市）代表取締役本田節氏に講師をお願いし、「地域づくりに女性の声を」と題して女性の主体的な地域づくり活動の実践例を講演していただいた。</li> <li>・一般参加者にはアンケートを行い、講演会に対する意見や感想やなどから参加者の考えやニーズを把握し、今後の活動の参考とすることとした。</li> </ul>
感想等	<p>《参加者の意見・感想》一部</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ネットワークの重要性や、女性が精神的、経済的に自立することが大事なんだということを考えさせられました。（30代女）</li> <li>・地域も老若男女で作っていく。すべての人に役割があるということはすばらしいと思います。（40代女）</li> <li>・精神的、経済的自立が女性の自立につながる。老若男女、地域に生きるすべての人々に役割、居場所があることを念頭に、これからも生きていきたいと思います。（60代女）</li> <li>・男性しかできないことを男性がやるのが男女参画ですか。ひとつのことを男女がともに作り上げるのが男女参画ですか。（40代男）</li> <li>・『女性』といわず、男女（老若）みんなが参加できるような町になるのが参画社会への一歩だと感じた。（50代女）</li> </ul> <p>《参加者の感想を通して考えたこと》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私自身、特に山都町町内では、“地域”の中では依然として男性が中心で運営されている実態が強いと感じられることから、老若男女すべての人に役割や居場所があるという意見が寄せられ、男女共同参画の一歩となったのではないかと思った。また、「男女共同参画とは何か」ということ直接的に解説する講演会ではなく、実際の活動を紹介する講演会であったことから、女性の参画を推進するためには、「女性の自立」が重要という意見が多くあがり、今後の活動に大きな収穫となると思う。</li> <li>・今回の講演への参加者は、女性自身で活動をしたい、または興味がある、学びたいという方が中心と考えられるため、男女共同参画をより推進するためには、これ以外の方々に広く参加してもらおう企画や広報が重要と思った。</li> </ul>

# 「男女共同参画社会の実現に向けて」

[3班：山本 敬晃（八代市）]

日時	平成28年12月6日（火）、15日（木）
場所	まちなかホームルームたまりんば/八代市役所千丁支所 1階 第1会議室
参加者	八代市職員 1名、八代市民 1名、研修メンバー1名/会員13名
形式	プレゼンテーション、意見交換
ねらい	県外研修で学んだことや、そこから考えたことを発表し、意見交換をすることで、今後取り組むべき課題についてまとめる。
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己紹介</li> <li>・昨年の研修との違い</li> <li>・県外研修から考えたこと</li> <li>・時事問題で考える</li> <li>・これからについて</li> <li>・質疑、応答</li> <li>・意見交換</li> </ul>
感想等	<p>同じ市から参加したメンバーの方の提案で、合同報告会を開催した。それぞれ忙しいこともあり、打ち合わせや連絡がうまくいかず、また、子どもが病気になる、メンバーである私の妻が参加できないことが残念であったが、今回の自主研修自体は充実した内容だったと思う。</p> <p>参加者は男女共同参画社会づくり地域リーダー育成事業に参加したことがあり、関わりがある方ばかりだったので、昨年との研修内容の違い、主に今回から新たに研修に追加された講話について報告した。</p> <p>時事問題についてはアメリカ大統領選挙について取り上げて、男女共同参画社会の実現に向けて、関心をもてない人に対して、どのようにアプローチしていくかを今後の課題として意見交換をした。</p> <p>Ann E. Towns の「Norms and Social Hierarchies: Understanding International Policy Diffusion “From Below”」にもあるように、先進国や都市部ではなくても男女共同参画の進んだ取り組みができると思う。</p>



# 「研修報告会の実施と現状リサーチ」

[3班：渡邊 利香（人吉市）]

日時	平成28年11月12日（土） / 11月26日（土）
場所	知人の農作業休憩所 / 友人宅
参加者	知人5名 / 友人10名
形式	研修報告会、フリーディスカッション
ねらい	地域リーダー育成研修報告を題材に、フリーディスカッションを行うことにより、現状における課題をあぶり出し、今後の施策の参考とする。
内容	<p>① 県外研修の内容をまとめた自作のレジュメに沿って、説明を行った。</p> <p>② 司会者を選出し、男女共同参画社会に対して抱いているイメージや意見を自由に発言してもらい、用語や概念の浸透度について確認した。</p> <p>③ 現行施策における問題点の抽出を行い、どのように改善したらよいかについて、方法論を全員で考えた。</p>
感想等	<p>(出された主な意見)</p> <p>○産休や育休といったものは独身者にとって無縁であり、取得されるとその人の分まで分担して仕事をこなさなければならず、なんだか納得いかない。</p> <p>○最近、「子育てしているのだから、多少のことは許されて当たり前」と受け取られかねない振舞いをする親がいることが気になる。子供への影響が心配である。</p> <p>○審議会などへ目標値を定めて女性を登用しようとする動きについて。目新しい発想が出るのなら歓迎だが、単なる員数合わせでしかないのであれば、社会的にもマイナスであり、やめてほしい。内実の伴わない積極的改善措置には与しない。</p> <p>○一億総活躍社会と男女共同参画社会の、概念的な切り分けがよくわからない。</p> <p>(感想)</p> <p>男女共同参画社会を推進することは、既得権への切込みにつながり、また、新たな軋轢やひずみを生む可能性も大いに孕んでいるので、常に全体最適との衡量をはかりつつ、PDCAサイクルを回しながら進めていく必要性を感じた。また、ポジティブ・アクションに対する違和感は女性側も大きい。社会的合意のない政策は画餅でしかないので、とにかく丁寧な説明を心掛けることが特に重要だと感じた。</p>



# 「研修報告」

[3班：小崎 あすみ（上天草市）]

日時	平成28年11月29日（火）
場所	上天草市役所大矢野庁舎2階庁議室
参加者	上天草市男女共同参画社会推進審議会委員 8名、事務局 3名
形式	スライドを使用した研修報告
ねらい	審議会委員の改選に伴い、新委員での初めての審議会。研修の意義等の説明後、研修にて学んだことを報告。来年度以降、委員からの参加者を輩出し、本市の男女共同参画社会づくりに力添えしてもらう。
内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・本研修の意義、これまでの実績（研修生の輩出）を説明。</li><li>・時系列に沿って、研修内容の報告</li><li>・特に勉強になった研修内容の説明 等</li></ul>
感想等	<p>本審議会には、これまで研修に参加したことがある委員もあり、本市の男女共同参画社会の実現に向けて尽力していただいている。また、10名の委員のうち4名が新任で、男女共同参画について意識は高い方ばかりだが、どのような活動をしているかわからない委員もいたので、研修の報告を中心とした構成にした。</p> <p>一番、心を掴んだ内容は、With You さいたまにあった、ストロー入りのコップの話である。オブジェには意味がないことで、少し落胆させ、その後存在意義を説明したことで、納得が得られた。</p> <p>研修で撮影した写真をスライド形式で報告したため、スムーズに報告ができたと感じている。会議内の限られた時間だったため、大まかになってしまったが、参加したことのない委員の心は掴めたと実感している。来年度、審議会委員から研修生を輩出し、そこからさらに市の男女共同参画社会づくりに力になってもらいたい。</p> <p>私自身としては、一担当としてではなく、一個人として、豊かな社会を実現できるよう、男女共同参画について身近な所から発信していきたい。</p>



# 「男女共同参画研修報告会」

[3班：生嶋 祥子（天草市）]

日時	1 平成 28 年 12 月 6 日（火）	2 平成 28 年 12 月 12 日（月）
場所	1 Aコープ牛深2F	2 牛深地区コミュニティセンター2F
参加者	1 JAあまくさ牛深統括支所職員7名 行政職員10名	2 市民男性2名、女性5名
形式	研修報告会	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修で学んだ事や感じたことを伝えた後、フリートーク形式で各人の“男女共同参画”についての意識を再確認する。</li> <li>・ 次年度の地域リーダー研修への参加者を促す</li> </ul> <p>（※今月4日から10日までは人権週間である事を伝える）</p>	
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ エセナおおたについて 意見交換会の報告⇒テーマ「男性の育児休業取得率を上げるためには？」 大田区（都会）も地方と同じように取得率は高くないことを話した。 最終的には施策、制度を決めるところから、男女それぞれの意見がどのように反映されるかがポイントだという結論に至ったことを説明した。</li> <li>・ With You さいたまについて 男女、職種関係なく住民のニーズに合った様々な事業がなされており、特に本年11月広報紙の表紙「高校の部活動から考える“女のスポーツ男のスポーツってあるの？”」に関心を持ったことを話した。 ※将来のために若年層には特に“男女共同参画”について、考えてもらう。</li> <li>・ 同じ活動目的を持った市民が集う拠点（施設）があっても、関わるスタッフの意識がしっかりしていなければ、実施された事業も曖昧になる。 今回の研修に参加し、個人の想いが集団の活動力（源）になることを学んだ。 ※この事を特に重点的に説明した</li> </ul>	
感想等	<p>一方的に説明を行うより、フリートークで自由に言葉を発することで、出席者が各々の意見を伝えること、また意見を聴くことに集中していたように感じた。それぞれがキーワードを見つけ、各人それぞれの“男女共同参画”に対する思いを持って、これからの地域活動に活かして行くことを期待する。</p>	

1



2



# 「男女共同参画事後研修報告書」

[3班：吉松 法政（五木村）]

日時	平成 28 年 12 月 2 日（金）
場所	五木村役場
形式	五木村役場建設課職員 5 名
ねらい	今回の男女共同参画社会研修の内容や感想を報告することにより、その意義を知ってもらうとともに、考える機会にしてもらい、今後の生活に活かしてもらいたい。
内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・本研修を通して学んだことや感想について報告。</li><li>・報告し、質問に答える。</li><li>・普段生活する上で、改善できることを話し合う。</li></ul>
感想等	<p>本研修を終えての感想や研修で学んだこと、生活するうえで少しずつでも改善できることがあるのではないかと考えを報告をした。</p> <p>どうしても「男女共同参画＝男女平等」と考えてしまう傾向があると感じた。男女平等と考えてしまうと、ただ単に、女性の社会的地位が、低いので男も女も平等にすべきだという考えに至ってしまい、難しいとか面倒であるとの印象を持たれてしまう。まず、男女共同参画を考える・推進していく上で、「どちら一人ひとり違う考え方をを持った人間である」という考えの基、お互いに助け合い、サポートし合いながら、より良い社会をつくって行こうという、行動を起こす触りとしての簡単な考え方でよいのではないかと考えた。簡単に考えることから意識改革・行動ができるとの意見があった。また、男女共同参画というと「女性の地位の改善をすればよい」と思っている男性が多く、そこも意識改革をしなければならぬと感じた。男性にも育児休暇の取得が難しい等の問題もあり、女性だけの問題ではない。男性の育児休暇がとれない＝女性がやらざるを得ないことで、女性の社会進出の妨げになっている。</p> <p>自主企画研修後の感想として、「男女共同参画＝男女平等＝女性の問題」と捉えてしまう人が少なからずいることが分かった。難しく考えず、男性にとっても女性にとっても生活しやすい、お互いに助け合いながら生活を送ることで、少しずつでも意識改革、社会が変わっていくのではないかと感じた。</p>

# 「留学生と男女共同参画について話し合い」

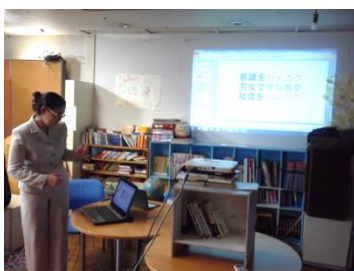
[4班：梁 美キ（八代市）]

日時	平成28年12月28日（火）
場所	熊本市国際交流会館 1階
参加者	中国人留学生1人
形式	県外研修内容紹介、意見交換
ねらい	ほかの外国人に日本における男女共同参画の活動を紹介することによって、日本への理解を深めること。同じ中国出身の留学生がこういった活動に対してどういうふうにか考えるかを知ること。
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エセナおおたの見学、落語と男女共同参画、パパスクールの開催などを中心にした内容</li> <li>・意見交換</li> </ul>
感想等	<p>三日間の県外研修をすべて詳しく紹介するのが難しく、私にとって印象深い三つの内容を中心に留学生に話した。エセナおおたの完成度の高さや、『亭主関白』を参考にした歌、新しい時代のパパのあり方についてのセミナーにとっても感動したと伝えて、メディアの影響力を利用したり教育に力を入れたりすると、男女のあり方に少しでもポジティブな影響が出ると考えていることを伝えた。しかし、参加者の留学生はこういった活動にポジティブな見方を持っていないようだった。参加者の意見によると、文学と同じように、このようなセミナーや組織の活動は一時的には影響があるだろうが、長期間の影響を及ぼしたり、根本的に変えられるとは限らないらしい。そして、日本の男女への考え方はこの国の文化や教育によって作られたもので、根強い男尊女卑の文化を変えるには、もっと大きなスケールの活動と時間が必要だろうと言っていた。</p> <p>参加者の意見にも私が賛成するところがある。男女平等という戦いは人類の歴史ほど長いと言われているが、男女平等の実現は簡単なことではない。ジェンダーについては今回の研修に限らず、今後もずっと考えていきたいテーマである。</p>

# 「温故知新」

[4班：下村 淑子（八代市）]

日時	平成28年12月6日（火）、12月11日（日）、12月17日（土）
場所	八代市商店街「たまりんば」、自宅、レストラン
参加者	市役所職員1名、タイ人3名、ベトナム人1名、日本人2名
形式	パワーポイントと動画でまとめたものを報告、意見交換
ねらい	今年の男女共同参画の標語である 「意識をカイカク 男女でサンカク 社会をヘンカク」 の本質を理解し実際の行動に繋げる
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 熊本県の男女共同参画目標である、「男女共同参画社会の実現」を提示。</li> <li>2. 第二次世界大戦時、ブルネイに1年のみ派遣された木村知事が将来を見据えた言動をとった事により、現在のブルネイの人々の対日感情が非常に良好である事を動画により御覧頂いた。「未来を考えて行動すべき」「【和を以て貴しとなす】は、日本人の“心”</li> <li>3. マヒカ前ウルグアイ大統領が来日された際の講演やメッセージを御覧頂いた。「今では無く、子供や孫の時代を考えて行動すべき」「足るを知る」「文明が発達して日本人は“魂”を失った」「日本人は、本当に幸せですか？」</li> <li>4. 【“和”のある社会=男女共同参画社会】</li> <li>5. 「男性は利益が理解出来たら動く」「男女の特性」「適材適所」について説明</li> <li>6. 604年に聖徳太子が発布された【17条の憲法】の第7条に「適材適所」についての記載がある事を説明。</li> <li>7. 【17条の憲法】の第17条に、「男女で参画」の記載がある事を説明。</li> <li>8. 【17条の憲法】の第1条 「和をなによりも貴いものとし、真理に背いて逆らわないことを宗教の根本として尊びなさい。 人は皆、目的・利害などを同じくする人々の集団をつくりたがり、真理に通じて悟りきった高德者は少ない。それだから、主君や父親に対して従順では無く、隣人とも一致しない。しかし上の者が穏やかで柔和、下の者も協調・親睦の気持ちをもって物事を議論し調和する時、まさしく、物事は宇宙の普遍の法則（真理）に自然と通暁する。そうすれば、どんなことでも成し遂げられない事はない。」</li> <li>9. 全ての人の意識が“和”に向けば、必ず社会は変革します。</li> </ol>
感想等	「ことわざ」などからも、先人の偉大な知恵を見る事が出来ます。私達、後輩はそこから多くの事を学ばなければなりません。聖徳太子の時代は、「推古天皇」という女性天皇でした。“心”、“魂”を失っている現代人は、「馬の耳に念仏」「猫に小判」「豚に真珠」にならない様に襟を正す必要があるのかもしれない。





# 「自主研修報告会」

[4班：岡 早百合（宇城市）]

日時	平成28年11月18日（金）
場所	宇城市役所 新館第1会議室
参加者	宇城市男女共同参画社会推進委員会委員 14名 宇城市人権啓発課職員 3名
形式	宇城市男女共同参画社会推進委員会において研修報告会を実施 宇城市から参加した研修生2名がそれぞれ報告
ねらい	研修で学んだことを報告する。
内容	研修に参加したいと思った動機 この研修に出会って学んだことや、これからの活動に必要な女性の視点等についての報告 資料等の説明。（チラシの作り方）
感想等	宇城市男女共同参画社会推進委員会の場での報告会で、皆さん既に活動をされている方だったため、今頃？と思われたかもしれないが、時代は進んでいて、イクメンにも少しずつ変化があり、女性の賢い生き方が浸透していることを話した。ほかに、夫婦別姓についての落語を利用した講話や、女性が女性の立場で考え、課題に向き合う視点についても話した。 女性が活躍できる社会にするため、男性も味方に加えた男女共同参画社会を目指したい。



# 「男女共同参画社会づくり地域リーダー研修報告」

[4班：熊谷 和信（菊陽町）]

日時	平成 28 年 12 月 7 日（水）
場所	菊陽町三里木町民センター
参加者	菊陽町男女共同参画審議委員 菊陽町男女共同参画さんさんの会 菊陽町老人会長 計 10 名
形式	菊陽町男女共同参画を推進する団体への研修報告及び意見交換会
ねらい	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 県外研修の概要報告</li><li>・ 男女共同参画社会づくりを先進的に取り組んでいる地域の状況に学び、男女が共に歩むまちづくりを考える機会とする。</li></ul>
内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 今回の研修に参加した動機</li><li>・ 研修の内容報告</li><li>・ 研修で学んだこと、感想発表</li></ul>
感想等	<p>菊陽町は平成 24 年に「男女共同参画都市宣言」を行い、男女が互いにその人権を尊重しつつ、あらゆる分野で性別にかかわらず個性と能力を十分に発揮することができる社会の実現を目指し、男女共同参画の推進に取り組んでいる。今回の報告会にも、以前、本研修に参加された方が 2 名おり、「丁寧で細かいところまで分かりやすい復講で研修の成果がうかがわれた」といった意見や、「今回の県外研修で自分自身にどんな変化があったか」という質問があった。</p> <p>また、「今回の県外研修を受けて、これからの私たちの町づくりに具体的なものとして活かしていくことが大切なことである」との意見もあった。本町では毎年、男女共同参画社会づくりを町民に啓発する事業として「よかつれフェスタ」と銘打って、男女共同参画さんさんの会講演会を催している。本年度は、平成 29 年 1 月 14 日（土）に予定しており、今回の報告を活かした内容での話し合いへと進めることができた。</p>



# 「男女共同参画研修報告」

[4班：荒木 羽純（上天草市）]

日時	平成28年12月21日（水）
場所	上天草市役所
参加者	福祉課職員・嘱託職員8名
形式	報告
ねらい	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域リーダー育成事業研修の概要・研修内容の報告</li><li>・男女共同参画について考えてもらうきっかけとする。</li></ul>
内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・研修の概要、参加動機</li><li>・研修内容の報告 エセナおおた、With You さいたまの施設概要 チラシの作り方講座 ワークライフバランスについて</li></ul>
感想等	<ul style="list-style-type: none"><li>・まず、県が主催している本研修の制度について、一般市民に公募をしており、市職員も参加の機会があることを説明。研修自体を知らない職員もいた。これまで女性の参加が多いので、男性職員にもぜひ参加してほしい。</li><li>・担当課だけでなく、他課の職員も意識を高くもち、全庁的に取り組む必要がある。</li><li>・大田区、さいたま市には男女共同参画を目的とした施設があることを説明。本市には「男女共同参画」と名前のつく施設はないため、既存の施設に男女共同参画の情報に触れることのできる場所を設けることができればと思う。</li><li>・チラシの作り方講座について、今後、イベントを主催する業務に携わったときに活用できるもので、参加者の関心も高かった。</li><li>・職員同士においてもワークライフバランスを意識し、女性が育児をしながらでも活躍できる職場にしたい。また、男性が家庭をサポートするため、育児休暇を取得しやすくなるような職場環境を作っていきたい。</li></ul>



# 「自主研修報告会」

[4班：笹山 裕斗（宇城市）]

日時	平成28年11月18日（金）
場所	宇城市役所 新館 第1会議室
参加者	宇城市男女共同参画推進委員 10名 宇城市人権啓発課 2名
形式	宇城市男女共同参画社会推進委員会において研修報告会を実施 宇城市から参加した研修生2名がそれぞれ報告
ねらい	研修で学んだ事を報告するとともに、男女共同参画社会推進委員の皆さんから意見及びアドバイスをいただく。
内容	<p>今回の研修に参加して自分が学んだ事及びこれからの取組みを報告した。</p> <p>◆研修で学んだこと</p> <ol style="list-style-type: none"><li>『行政の役割＝人と人、人とモノを繋ぐこと』を改めて認識</li><li>男女共同参画社会＝『女性のために』という一方的な視点があったが、まずは<u>男性を取り巻く環境から変えていく</u>必要がある</li><li>カギは『ワークライフバランス』の改善</li></ol> <p>◆自分の環境でできる男女共同参画社会への取組み</p> <ol style="list-style-type: none"><li>チームで動くことを意識して、休みの取りやすい職場づくり 休みを取りにくい原因として、担当者単独による業務遂行が考えられる。担当者が急用で不在であっても業務が遂行されるように、チームによる取組みが求められる。そのためには課内で週一回、業務の進捗報告と今後のスケジュールを伝え、現況と目標をチームで共有する。</li><li>男性を対象とした講座の開設 「エセナおおた」で実施されているご近所づきあいがうまくできない退職者向けのサロンや、育メンの普及を狙った若いパパ向けの親子教室を宇城市のコミュニティセンターに合わせて取入れることで、男性の生き方に男女共同参画の風を吹き込む。</li><li>ワークライフバランスについての知識と経験を積み重ねる 今回の研修で得られた知識を基に自己学習で深めていき、業務を通じて実践してPDCAを繰り返すことで、自分が将来管理職になった際にワークライフバランスの実現に向けて即実行できるようにする。</li></ol>
感想等	男女共同参画社会の実現には多くの人たちの力が必要だと報告をする中で強く感じた。今回の研修で一緒に取組んだ皆さんのように、地元や職場の人々とのつながりを深めてなかまを増やしていきたい。そのためには、まずは自らが行動を起こして、目標の一つずつを形にしていきたい。



## 編集後記

### ◆ 原 恭平(1班/合志市)

編集係は班の中であみだくじで決まった。当初はそこまで深く考えていなかったが、事前研修が終わり自宅に帰り気づいた・・・  
「パソコンは苦手・・・まとめるのなんてもっと苦手だ。」

パソコンも古く滅多に開かないので、不安だらけだった。しかし普段しない事をさせて頂ける事、自分のスキルアップの為にもなると、気持ちを切り換えた。

編集係は班メンバーのレポートを一早く読む事ができ、研修の内容を鮮明に思い返す事ができた。又、自分にはない視点に気付く事が出来た。編集係になって本当によかったと思う。

### ◆ 田中 聡子(2班/山鹿市)

研修生の皆さんから届く報告書に目を通しながら、「同じ二泊三日の研修においても、一人ひとりの一番印象に残っていることや捉え方など、こんなにも違うんだ」と驚いた。

自分には見えていなかった角度からの感想があったり、こういった考え方もあるのだと、自分の視野を広げることができた。

編集係をさせていただいたことで研修を振り返りながら、もう一段掘り下げて学ぶことができたと思います。ありがとうございました。

### ◆ 小崎 あずみ(3班/上天草市)

3班の編集係は、パソコン作業が好きだということ、何か自分からアクションを起こしたいという思いから、自ら手を挙げた。

研修から帰ってきて「きつかったけど楽しかった！」が率直な感想だったのだが、いろんな人の考えが聞け、たくさん刺激を受けることができた。ほかの方も同じだと思う。

それを編集係として、共感しながら、あるいは新たに刺激を受けながら、形にできたことは大変嬉しかった。

表紙のレイアウトも担当させてもらうことになり楽しかったです！！（少しPOPになりすぎ…？）

### ◆ 荒木 羽純(4班/上天草市)

編集係として、研修報告書の作成に最後まで携われたことをうれしく思う。みなさんそれぞれに様々な思いをもって参加されており、ひとりひとりが熱い気持ちをもって作成された報告書ができた。

今回の研修で参加者のみなさんと出会えたことに感謝し、今後も市町村を超えて、お互いの取り組みをサポートしあい、つながりが続いていくといいなと思う。参加者、県のご担当者、講師のみなさま、ありがとうございました。

## 研修団名『地震から自信へ28』

熊本地震での経験を、それぞれの研修生が、この研修での学びを通じて“自信”へと繋げていこうと、2班の田中緑さん（長洲町）が命名しました。

平成28年度  
男女共同参画社会づくり  
地域リーダー育成事業  
研修報告書

平成29年3月  
くまもと県民交流館 男女共同参画センター  
〒860-8554 熊本市中央区手取本町8-9 テトリアくまもと  
TEL:096-355-1187 FAX:096-355-4317

発行者：熊本県  
所 属：くまもと県民交流館  
発行年度：平成28年度